

# データでみる静岡県の地場産業

平成 24 年 12 月

静岡県経済産業部商工業局地域産業課



# 目 次

製 紙 .....	1
家 具 .....	5
仏 壇 .....	11
サ ン ダ ル .....	15
木 工 機 械 .....	19
木 製 雑 貨 .....	23
プ ラ モ デ ル .....	25
雛 具・雛人形 .....	29
織 維 .....	33
楽 器 .....	37
オ ー ト バ イ .....	41
水 産 缶 詰 .....	43
関係機関一覧 .....	47
各業種団体一覧 .....	48



# 製 紙

## (1) 沿 革

静岡県の紙の歴史は、奈良時代の手すき和紙から始まったといわれているが、歴史上の記録では、室町時代に登場する修善寺紙が最古のものである。本県は、紙すきに適する良質な軟水、また楮(こうぞ)、三桮(みつまた)など自生の和紙原料に恵まれていたことから、江戸時代には駿河半紙と呼ばれる高品質の和紙が作られるようになり、本県の代表的な産品となった。

本県の手すき和紙は、明治28年ごろまで隆盛の一途をたどったが、明治中期からの洋紙技術の導入によって機械抄紙が発達し、和紙の製造も機械化が進んだため、手すきの和紙は衰退していった。

本県での近代的紙パルプ産業は、明治22年に、王子製紙が周智郡気多村(現在の浜松市天竜区春野町)で亜硫酸パルプの製造を始めたのが発祥となった。また、明治28年には、地元資本により原田製紙(株)が富士郡原田村(現在の富士市)に設立され、現在の産地を形成する基盤となった。

第二次世界大戦の影響による混乱期の後、製紙業界は幾度かの景気変動を経験しながら成長を続けてきた。昭和43年に紙の設備規制が撤廃されたことにより、大手メーカーでは、国際競争に耐える体質強化を目的として業界の再編成が行われた。一方、中小メーカーは、脱墨・漂白を中心とした古紙再生技術を向上させ、家庭紙などの全国的な産地としての地位を確立していった。

昭和40年代半ばからは、田子の浦港へのドロ問題が大きく取り上げられるようになったが、製紙業界では数々の環境保全対策を打ち出し、昭和50年代半ばには解決した。

以後、成長を続けてきた製紙業界だが、景気低迷や電子媒体の浸透など社会生活環境の変化に伴い、平成3年をピークに出荷額は減少している。

## (2) 現状と課題

本県の製紙産業は、富士地域を中心に、家庭紙や板紙の製造工場が多数集積し、製造品出荷額は全国第1位を誇っている。しかし、近年、人口の減少やペーパーレス化の進展に伴い、主に洋紙において、国内需要は伸び悩んでいる。他方で、中国やインドネシアからの安価な輸入紙の増加により、国産品のシェアが減少しており、本県においても生産削減の動きが顕著である。

こうした中、県内製紙関連5団体からなる静岡県紙業振興協議会では、毎年11月に業界としての重要問題をテーマに「紙業振興大会」を開催している。平成24年11月に開催された大会では、世界経済の減速などに伴う国内需要低迷の中、製紙業界が発展継続していくために、エネルギー消費の総点検による省エネ対策を実現し、時代の変化に対応した付加価値商品の提供による適正な収益を確保すると共に、優れた品質を全国に向かって発信することを宣言し、業界の結束を強めた。

また、本県は、再生紙の製造を行う中小メーカーが多く、古紙リサイクルの促進において重要な役割を担っている。製造工程で発生するペーパーズラッジは、発生量が多く、各メーカーでは、セメント原料や製鉄所の酸化防止剤への再利用化を進めるなど有効活用に取り組んでいる。

このように、業界では、新技術の開発や再生紙の利用拡大を図ることで資源循環型産業としての発展を目指している。

(3) パルプ・紙・紙加工品製造業の推移

ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	前年比	従業者数	前年比	製造品 出荷額等	前年比	全国シェア	備考
57	818	△ 0.1	31,066	△ 0.9	850,391	2.8	12.3	
62	819	△ 2.2	30,845	△ 1.0	897,648	△ 0.5	12.1	
<b>H3</b>	816	0.7	31,100	0.8	1,116,832	3.0	12.5	出荷額等最大
4	788	△ 3.4	30,825	△ 0.9	1,112,468	△ 0.4	12.7	
9	737	△ 0.4	27,993	△ 1.3	1,085,094	0.6	12.6	
14	643	△ 4.3	24,006	△ 4.9	900,187	△ 4.1	12.6	
17	603	△ 1.1	22,112	△ 4.1	886,064	△ 3.3	12.5	
18	584	△ 3.2	22,189	0.3	906,862	2.3	12.6	
19	576	△ 1.4	21,195	△ 4.5	937,115	3.3	12.2	
20	564	△ 2.1	20,153	△ 4.9	938,462	0.1	12.0	
21	540	△ 4.3	19,024	△ 5.6	823,315	△12.3	11.6	
22	537	△ 0.6	18,647	△ 2.0	818,930	△ 0.5	11.5	

資料：静岡県「工業統計調査報告書」産業編 従業者4人以上の事業所

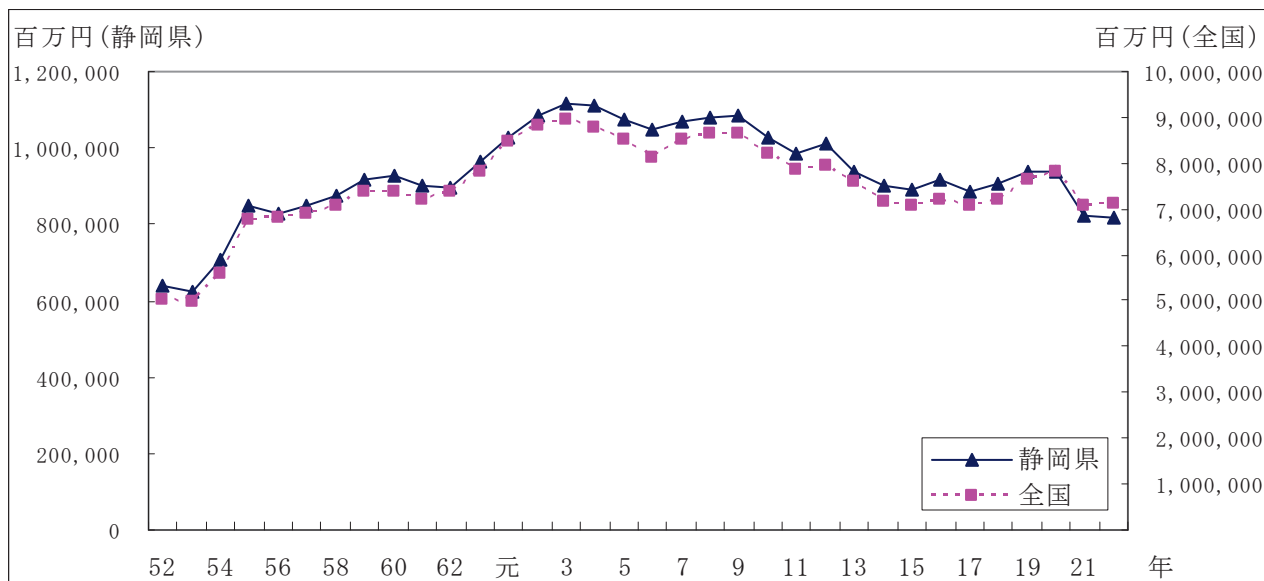
イ 全国

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	前年比	従業者数	前年比	製造品 出荷額等	前年比	備考
57	11,829	△ 2.8	275,824	△ 3.0	6,899,566	1.1	
62	11,437	△ 3.1	277,945	0.5	7,389,728	2.4	
<b>H3</b>	11,184	△ 1.9	282,661	△ 0.3	8,964,656	1.7	出荷額等最大
4	10,882	△ 2.7	281,244	△ 0.5	8,768,743	△2.2	
9	9,845	△ 3.5	258,893	△ 1.8	8,640,979	0.1	
14	8,439	△ 6.4	224,874	△ 4.7	7,152,012	△5.7	
17	7,894	0.5	210,460	△ 1.6	7,089,182	△1.6	
18	7,457	△ 5.5	208,585	△ 0.9	7,201,471	1.6	
19	7,414	△ 0.6	209,882	0.6	7,659,999	6.4	
20	7,391	△ 0.3	204,994	△ 2.3	7,794,836	1.8	
21	6,949	△ 6.0	194,569	△ 5.1	7,068,053	△9.3	
22	6,685	△ 3.8	189,807	△ 2.4	7,110,758	0.6	

資料：経済産業省「工業統計表（産業編）」従業者4人以上の事業所

## ○ パルプ・紙・紙加工品製造品出荷額等の推移



## ウ 全国シェア（製造品出荷額等ベース）

年別	1位		2位		3位		4位		5位	
		%		%		%		%		%
17	静岡	12.5	愛媛	7.3	埼玉	6.0	北海道	5.9	大阪	5.4
18	静岡	12.6	愛媛	7.2	北海道	6.0	埼玉	5.8	愛知	5.3
19	静岡	12.2	愛媛	7.2	埼玉	5.9	北海道	5.8	大阪	5.6
20	静岡	12.0	愛媛	7.9	埼玉	6.1	北海道	5.9	愛知	5.4
21	静岡	11.6	愛媛	7.7	埼玉	6.1	北海道	5.9	愛知	5.5
22	静岡	11.5	愛媛	7.3	埼玉	6.1	北海道	5.7	愛知	5.6

資料：経済産業省「工業統計表（産業編）」従業者4人以上の事業所

## (4) 品種別出荷額

(単位：百万円、%)

### ア 印刷・情報用紙

年別	全国	静岡県	全国シェア
17	1,127,749	127,276	11.3
18	1,112,364	120,021	10.8
19	1,170,101	113,167	9.7
20	1,260,944	123,669	9.8
21	1,035,317	98,656	9.5
22	1,044,612	91,127	8.7

### イ 包装用紙

年別	全国	静岡県	全国シェア
17	107,324	31,289	29.2
18	102,352	23,698	23.2
19	109,574	24,738	22.6
20	120,073	31,652	26.4
21	114,769	29,842	26.0
22	109,007	23,437	21.5

(単位：百万円、%)

## ウ 衛生用紙

年別	全 国	静 岡 県	全国シェア
17	229,321	60,907	26.6
18	228,129	68,596	30.1
19	226,076	64,656	28.6
20	217,111	69,659	32.1
21	225,953	80,374	35.6
22	212,994	62,493	29.3

## エ 雑種紙

年別	全 国	静 岡 県	全国シェア
17	250,758	85,407	34.1
18	236,982	88,719	37.4
19	247,789	89,123	36.0
20	220,721	68,950	31.2
21	177,278	55,996	31.6
22	196,758	58,235	29.6

## オ 段ボール原紙 (外装用ライナー・中しん原紙)

年別	全 国	静 岡 県	全国シェア
17	421,138	71,806	17.1
18	446,078	75,013	16.8
19	474,843	81,654	17.2
20	518,953	90,221	17.4
21	486,977	82,600	17.0
22	480,281	82,910	17.3

## カ 白板紙 (マニラボール・白ボール)

年別	全 国	静 岡 県	全国シェア
17	166,459	76,486	45.9
18	164,124	76,392	46.5
19	164,915	71,509	43.4
20	169,131	66,348	39.2
21	158,031	58,645	37.1
22	161,926	60,927	37.6

資料：経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所

## (5) 古紙利用率及び古紙回収率

## ア 古紙利用率内訳 (全国)

(単位：%)

業種	暦年	18	19	20	21	22	23
紙 向 け		38.1	40.1	40.5	42.1	40.5	39.6
板 紙 向 け		92.7	92.4	92.8	92.5	92.8	92.8
合 計		60.6	61.4	61.9	63.0	62.5	63.0

$$\text{古紙利用率} = \frac{\text{古紙消費量 (古紙パルプ+古紙)}}{\text{紙・板紙原料合計 (パルプ+古紙+古紙パルプ+その他)}}$$

## イ 古紙回収率内訳 (全国)

(単位：%)

業種	暦年	18	19	20	21	22	23
段ボール、茶模造紙		102.1	103.0	103.7	110.8	109.0	107.9
新 聞		145.2	149.9	147.2	149.8	146.0	144.4
そ の 他		40.3	42.4	42.9	45.4	44.5	45.4
合 計		72.4	74.5	75.1	79.7	78.2	77.9

$$\text{古紙回収率} = \frac{\text{古紙国内回収量 (古紙入荷量-古紙輸入量+古紙輸出量)}}{\text{国内で使用された紙の量 (出荷量+輸入量-輸出量)}}$$

資料：公益財団法人古紙再生促進センター



# 家 具

## (1) 沿 革

静岡県の家具の起源は、今から 370 年余前の寛永 11 年（1634 年）、徳川三代将軍家光公が駿府（現在の静岡市）に浅間神社を造営するにあたり、全国各地から木工、漆工、彫刻などの職人を集め、これらの人々が神社造営後も気候、風土に恵まれたこの地に住み着き、漆塗り調度品（脇息、文鎮、印籠、食膳など）の生産を始めたのが産地の発生といわれている。こうした漆器製品から鏡台、針箱が生まれ、さらに塗り下駄、雛具、木製雑貨など種々の木製品が生産されてきた。

明治 18 年には、漆塗りの西洋鏡台が静岡市内の業者によって初めて製造され、これが当時の消費者のニーズに合っていたことや東西の消費地を控えての立地条件に恵まれたことも幸いし、鏡台の産地として全国に名声を博すに至った。また、大正中期から生産が始まったといわれる茶ダンスなどの和家具は、鏡台から分化したものであり、大正から昭和へと先人の努力により産地は発展の一途を辿ってきた。

戦後は、座鏡台と姫鏡台が生産の中心となっていたが、順次、三面鏡や洋鏡台へと進み、昭和 30 年代後半からはドレッサーやサイドボードが新商品として開発されるなど、生活様式の変化や生活水準の向上などによって家具の需要は拡大し、新材料や新技術の開発もあって飛躍的な発展をとげ、全国屈指の総合家具産地を形成するに至った。

## (2) 現 状 と 課 題

本県には、多くの木製家具製造の中小企業が集積し、その形態は、一貫生産を行うメーカーと産地間屋を頂点とした塗装・加飾などの専門工程を下職に分業させるものが混在するほか、最近では生産拠点をアジア諸国に移し、事業展開を図る企業もみられる。

家具製造業を取り巻く環境は、景気の低迷が続くなか、国内の家具市場は縮小傾向で推移しており、アジア産の低価格家具が国内シェアを伸ばす一方、国産品は苦戦を強いられている。特に、中国をはじめとするアジア産の低価格家具の増加により、国産品の市場価格が引き下げられ、収益の悪化を招いている。

生産体制は、家具需要の飽和化や消費者ニーズの多様化の進展に伴い多品種少量生産となり、製品コストの低減のため、海外からの製品・部品輸入を行うメーカーも増えてきている。また反対に、低価格の輸入家具に対して、素材やコンセプトにこだわり、日本的なデザインを取り入れ、外国製品ではまねできない細かな技術を駆使した高品質な製品作りを行うことで特色を打ち出すメーカーも出てきている。

流通面では、従来の家具専門店や百貨店が減少し、大型家具店やホームセンター、生活雑貨店が増加するなどの変化が見られ、インターネットやカタログを利用した通信販売も一般的になるなど、多様化する販売ルートへの対応が求められている。

こうした中、業界では、環境や健康、ユニバーサルデザインに配慮した高付加価値の商品開発のほか、デザイン性・インテリア性の高い家具をベースにした生活空間全体の提案や住宅・福祉市場への進出、海外を視野に入れたブランド化の取組などに努めている。また、新たな販売ルートとして、協同でインターネット販売を開始し、高品質で個性溢れる「シズオカ」ブランドを広く PR している。

### (3) 木製家具製造業の推移

#### ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	従業者数		製造品 出荷額等	全国シェア		備考	
		前年比	前年比		前年比	前年比		
S56	830	—	12,797	—	136,595	—	8.8	
61	796	△ 0.7	11,281	△ 3.6	134,426	1.4	8.6	
<b>H3</b>	723	△ 2.3	10,738	△ 3.1	180,550	4.0	8.5	<b>出荷額等最大</b>
8	520	△ 7.0	7,898	△ 5.8	141,045	△ 4.6	8.1	
13	390	△ 5.6	5,283	△ 5.9	68,277	△ 3.1	6.2	
17	295	3.5	4,359	0.8	53,467	△ 0.2	5.7	
18	260	△11.9	4,105	△ 5.8	53,777	0.6	5.8	
19	236	△ 9.2	3,801	△ 7.4	48,848	△ 9.2	5.1	
20	257	8.9	3,831	0.8	48,799	△ 0.1	5.5	
21	217	△15.6	3,177	△17.1	38,753	△20.6	5.3	
22	210	△ 3.2	3,145	△ 1.0	35,275	△ 9.0	4.8	

資料：静岡県「工業統計調査報告書」産業編 従業者4人以上の事業所

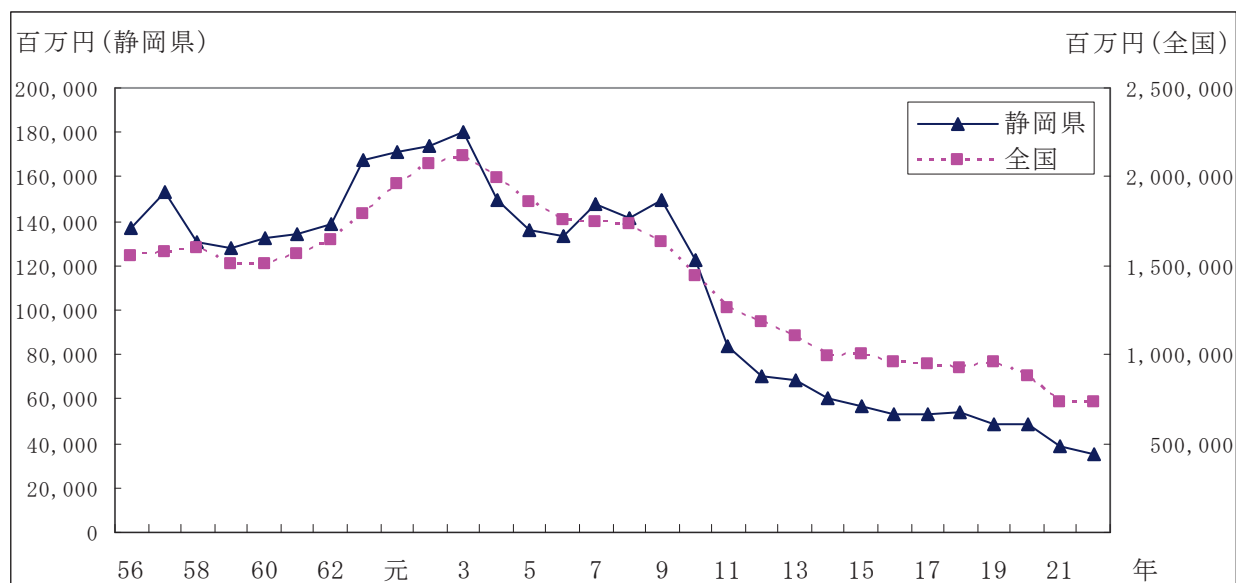
#### イ 全国

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	従業者数		製造品 出荷額等	備考		
		前年比	前年比		前年比	前年比	
S56	7,672	—	136,896	—	1,550,865	—	
61	7,089	3.1	116,439	1.0	1,563,747	3.4	
<b>H3</b>	6,844	△ 0.1	115,401	△ 1.3	2,113,235	1.9	<b>出荷額等最大</b>
8	5,617	△ 3.3	93,442	△ 3.3	1,731,010	△ 0.6	
13	4,616	△ 4.5	67,616	△ 5.2	1,104,022	△ 6.2	
17	3,921	4.9	56,505	0.4	942,902	△ 2.0	
18	3,552	△ 9.4	53,889	△ 4.6	924,326	△ 2.0	
19	3,471	△ 2.3	53,391	△ 0.9	962,085	4.1	
20	3,713	7.0	51,508	△ 3.5	883,430	△ 8.2	
21	3,165	△14.8	45,219	△12.2	733,548	△17.0	
22	2,936	△ 7.2	47,812	5.7	730,659	△ 0.4	

資料：経済産業省「工業統計表（産業編）」従業者4人以上の事業所

## ○ 木製家具製造品出荷額等の推移



## ウ 全国シェア (製造品出荷額等ベース)

年別	1位		2位		3位		4位		5位		6位	
	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%
17	愛知	11.2	福岡	9.0	岐阜	6.5	埼玉	6.4	静岡	5.7	大阪	4.9
18	愛知	11.8	福岡	8.6	岐阜	6.6	埼玉	6.5	静岡	5.8	大阪	4.7
19	愛知	12.3	福岡	8.1	岐阜	7.0	埼玉	6.7	大阪	6.3	静岡	5.1
20	愛知	13.3	福岡	8.3	大阪	6.4	埼玉	6.2	岐阜	6.0	静岡	5.5
21	愛知	14.6	福岡	9.3	岐阜	5.8	埼玉	5.6	大阪	5.6	静岡	5.3
22	愛知	12.8	大阪	11.9	福岡	8.1	岐阜	5.6	埼玉	5.4	静岡	4.8

資料：経済産業省「工業統計表（産業編）」従業員4人以上の事業所

## (参考) 県内家具・装備品製造業の推移

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数		従業員数		製造品出荷額等		全国シェア	備考
	数	前年比	数	前年比	額	前年比		
17	512	5.8	6,673	1.6	98,632	2.3	4.6	
18	448	△12.5	6,223	△6.7	95,135	△3.5	4.4	
19	414	△7.6	5,980	△3.9	91,597	△3.7	4.0	
20	435	5.1	5,958	0.4	86,907	△5.1	4.3	
21	374	△14.0	5,248	△11.9	75,617	△13.0	4.6	
22	338	△9.6	5,048	△3.8	67,202	△11.1	4.3	全国第8位

資料：静岡県「工業統計調査報告書」産業編 従業員4人以上の事業所

(注) 家具・装備品には木製家具、金属製家具、仏壇、建具等を含む。

#### (4) 木製家具の輸入状況（全国）

（単位：百万円、％）

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	構成比
1位	中国 91,283	中国 101,968	中国 110,862	中国 102,278	中国 89,537	中国 93,714	50.1
2位	タイ 27,571	タイ 27,997	タイ 26,451	ベトナム 25,220	ベトナム 25,064	ベトナム 24,720	13.2
3位	ベトナム 19,693	ベトナム 22,987	ベトナム 25,832	タイ 21,243	タイ 16,876	タイ 15,486	8.3
4位	マレーシア 14,472	マレーシア 15,060	インドネシア 14,182	インドネシア 14,755	マレーシア 14,892	インドネシア 15,254	8.2
5位	インドネシア 12,996	インドネシア 13,684	マレーシア 13,811	マレーシア 14,242	インドネシア 14,032	マレーシア 14,366	7.7
総計	206,691	221,338	227,883	209,482	184,257	186,963	—

資料：社団法人国際家具産業振興会

#### (5) 木製家具の輸出状況（全国）

（単位：百万円、％）

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	構成比
1位	アメリカ 371	アメリカ 469	アメリカ 671	アメリカ 526	アメリカ 206	中国 442	24.7
2位	中国 137	香港 238	中国 258	韓国 345	台湾 163	アメリカ 292	16.3
3位	香港 136	中国 150	香港 256	中国 218	中国 139	台湾 228	12.7
4位	韓国 133	韓国 114	韓国 202	香港 196	シンガポール 131	韓国 198	11.0
5位	台湾 68	台湾 75	台湾 114	台湾 192	韓国 127	香港 195	10.9
総計	1,201	1,535	2,230	2,134	1,320	1,792	—

資料：社団法人国際家具産業振興会

## (6) 主要製品の状況

(単位：個)

## ア たんす

年別	生産数量	出荷数量	年末在庫数量
17	64,446	70,365	17,331
18	54,828	58,338	11,192
19	51,958	53,114	11,628
20	44,512	48,871	8,432
21	25,554	26,979	7,479
22	54,146	55,560	6,951

## イ 木製棚物

年別	生産数量	出荷数量	年末在庫数量
17	1,670,001	1,683,639	201,676
18	1,666,968	1,731,315	196,410
19	1,470,912	1,519,612	187,575
20	1,467,802	1,540,224	180,272
21	1,177,785	1,237,581	142,485
22	1,592,740	1,636,859	108,459

## ウ 木製テーブル

年別	生産数量	出荷数量	年末在庫数量
17	281,682	351,220	50,873
18	259,179	312,029	47,927
19	247,300	293,383	48,116
20	215,079	258,639	35,717
21	154,637	184,095	30,221
22	165,567	198,568	26,257

## エ ベッド

年別	生産数量	出荷数量	年末在庫数量
17	708,300	770,389	52,289
18	703,248	766,688	34,333
19	696,727	737,146	32,083
20	616,186	636,263	27,036
21	430,750	443,695	24,015
22	364,774	371,717	20,443

資料：「繊維・生活用品統計年報」

## (7) 新設住宅着工件数

(単位：戸)

年別	静岡県		全国	
		前年比		前年比
18	38,686	8.0	1,290,391	4.4
19	37,233	△ 3.8	1,060,741	△17.8
20	36,210	△ 2.8	1,093,519	3.1
21	26,946	△25.6	788,410	△27.9
22	25,314	△ 6.1	813,126	3.1
23	25,023	△ 1.1	834,117	2.6

資料：国土交通省「建築着工統計」



# 仏 壇

## (1) 沿 革

静岡の木工業は、明治 22 年の東海道線開通とともに全国各地に販路が拡大され、鏡台、針箱をはじめ塗下駄、雛具、漆器など、多種多様な地場産業が形成され発展してきた。

このような中、仏壇については比較的歴史も浅く、戦前から研屋町仏壇と呼ばれていた簡単な漆塗り仏壇が建具職人によって作られてきたが、現在の仏壇業界はこの流れとは別に、戦後新しく静岡に生まれた業界である。

静岡仏壇は、昭和 26 年に東京の家具店から初めて注文を受け、市内の家具の木地作り業者が製品を作ったことが始まりといわれ、終戦の年に亡くなった人の 13 回忌にあたる昭和 33 年になると、全国的に仏壇の需要が高まり、静岡にも注文が殺到し、静岡の仏壇製造レベルを引き上げた。宗教団体向けの仏壇需要の増加もあって、木製はきもの業者や家具・木製雑貨業者が仏壇生産に進出し、仏壇の一大産地が形成され、現在に至った。

## (2) 現 状 と 課 題

本県の仏壇業界は、徳島県、京都府に次いで全国第 3 位の出荷額を誇り、プラモデルと並んで戦後急成長した業界である。

製造形態は、製造問屋を頂点に、木地屋、塗師屋、加飾屋などの下職を組織する分業体制と機械化を進めた一貫メーカーが並存している。

最近では、黒檀や紫檀を使った唐木仏壇のほかに、欅、本楠、屋久杉等の和木を使った特注品も作られている。また、「八宗もの」と「正宗もの」が混在している点が、静岡仏壇の特徴でもある。

デザインの変更が少ない仏壇は、安価な人件費及び材料費での海外生産に適しており、中国、タイ、ベトナム等で生産する県内メーカーも見受けられる。

業界では、増大する輸入品との差別化を図るため、海外生産では対応が難しい小ロット生産に活路を見出すほか、和木を使用した商品開発を行う中、他産地と協力して「国産」仏壇の定義及び産地・品質表示基準の明確化を目指し、小売店舗を通じた消費者へのアピールに取り組んでいる。

また、最近では、形にとらわれない新しいスタイルを好む消費者ニーズに応じた、家具調や小型の仏壇などの商品作りなど、様々な試みも行われている。

なお、業界の中では、仏壇が本来持つ姿を重視した商品の需要拡大に向けた取組が再認識されている。

### (参考) 仏壇の種類

八宗もの（八宗用仏壇）	天台宗、真言宗、浄土宗、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗の八宗向け仏壇
正宗もの（正宗用仏壇）	日蓮正宗向けの仏壇で、八宗用仏壇にない仏像、経巻などをおさめる厨子がついているのが特徴

### (3) 仏壇製造業の推移

#### ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考		
		前年比	前年比 全国シェア			
S62	147	—	18,016	17.7		
63	146	△ 0.7	18,428	2.3	18.0	出荷額最大
H4	113	0.9	13,404	△10.7	13.7	
9	91	5.8	11,918	2.8	14.5	
14	58	△18.3	6,016	△13.2	12.1	
17	44	△ 2.2	5,965	20.8	14.1	
18	44	0.0	4,965	△16.8	12.9	
19	42	△ 4.5	4,616	△ 7.0	11.3	
20	38	△ 9.5	4,367	△ 5.4	11.7	
21	37	△ 2.6	3,961	△ 9.3	11.6	
22	33	△10.8	3,463	△12.6	11.1	

資料：静岡県「工業統計調査報告書」品目編 従業者4人以上の事業所

#### イ 全国

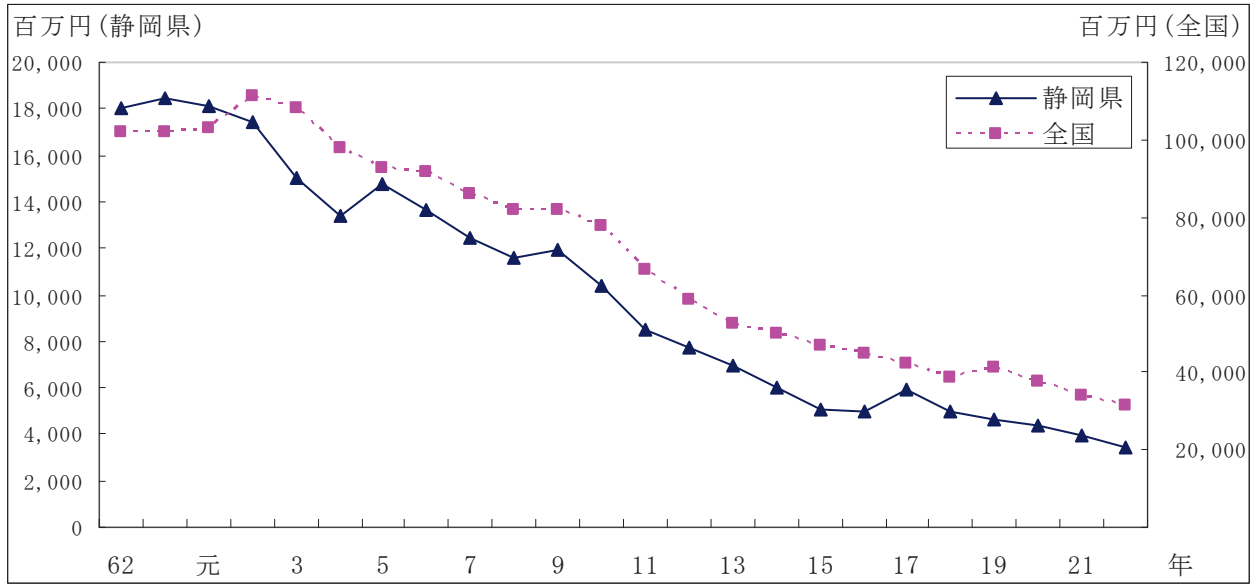
(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考	
		前年比	前年比		
S62	923	—	101,748	—	
H2	887	1.8	111,271	8.0	出荷額最大
4	796	△ 4.8	97,736	△ 9.8	
9	689	△ 1.4	81,964	0.3	
14	515	△ 9.5	49,918	△ 4.5	
17	461	△ 1.5	42,301	△ 5.4	
18	402	△12.8	38,584	△ 8.8	
19	419	4.2	41,015	6.3	
20	460	9.8	37,484	△ 8.6	
21	407	△11.5	34,229	△ 8.7	
22	377	△7.4	31,257	△ 8.7	

資料：経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所



### ○ 仏壇製造品出荷額の推移



### ウ 全国シェア (製造品出荷額ベース)

年別	1位		2位		3位		4位		5位	
	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%
17	徳島	21.5	京都	14.4	静岡	14.1	愛知	6.7	大阪	6.6
18	徳島	21.0	京都	15.5	静岡	12.9	福島	6.9	愛知	6.7
19	徳島	19.1	京都	15.8	静岡	11.3	大阪	7.6	愛知	7.5
20	徳島	16.8	京都	14.7	静岡	11.7	愛知	9.1	大阪	7.1
21	京都	15.2	徳島	13.9	静岡	11.6	愛知	9.5	福島	8.2
22	京都	14.8	徳島	13.4	静岡	11.1	愛知	10.9	福島	8.1

(注) 経済産業省「工業統計表 (品目編)」従業員4人以上の事業所の都道府県別出荷額をもとに算出



# サンダル

## (1) 沿革

静岡県の履物（下駄）の歴史は古く、江戸時代から漆器とともに、郷土色豊かな職人の手作りによって発展してきた。

産業として発展するきっかけとなったのは、明治初期に本間久次郎氏が、安倍川流域産の杉を用いた自作の下駄に漆塗りを試みて、東京での販売に成功したことである。明治後期からは機械化も始まり、昭和初期から第二次世界大戦後の昭和 25 年ごろまで、下駄の生産は全国一を誇っていた。

昭和 25 年以降、生活様式の洋風化の進展と新たな履物素材として化学製品が実用化されたことによって、関西方面から登場したケミカルサンダルが業績を伸ばしてきたため、昭和 30 年～32 年ごろから、静岡でもサンダル製造へ転換する企業が相次いだ。

この事業転換の先導的役割を担ったのは、塗り下駄製造問屋であり、先進地神戸からの技術導入や強化接着剤の共同開発などを積極的に推進し、産地ぐるみの展開を図った。

昭和 40 年代に入ると、サンダルの需要は停滞気味となり、生産過剰による過当競争の恐れがでてきたが、北米、東南アジアを中心に輸出が年々拡大し、最盛期（昭和 43 年）には輸出比率が 30%を記録するなど、国内の生産過剰の緩和に大きな役割を果たした。その後、関税問題やドルショック、オイルショックなどの影響を受け、輸出は減少していった。

## (2) 現状と課題

本県のサンダル産業は、紳士物サンダルを中心に発展し、現在は婦人物・子供物サンダルへシフトしているが、産地として全国的に上位のシェアを占めている。

国内生産は、消費者ニーズの多様化や円高による海外製品の流入で減少が続いており、シューズに転換した企業も一部にみられる。特に、低価格帯の定番品については、輸入総額の約 9 割を占める中国からの格安な輸入製品が定着し、定番品を主力とする静岡産地は大きな打撃を受け、国内生産を中止して、中国など海外の工場に生産を委託し輸入品で対応するメーカーが増えるなど、商社化傾向が強まっている。

一方、中高価格帯商品については、国内生産による高品質化や、衝撃吸収・健康増進等の機能の強化による高付加価値化により、安価な輸入品との差別化を図っている。

業界では、大都市圏における見本市へ出展し、新たな販路の開拓に取り組んでいるほか、直販部門の強化を目指し、インターネットやテレビを利用した通信販売部門の強化を進めている。

また、クールビズに寄与するオフィス向けサンダルの開発や、宣伝強化を行うなど、意欲的な取組により、業界を取り巻く厳しい状況の打開を図っている。

(3) サンドル製造業の推移

ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考
		前年比	前年比	
S62	103	—	22,297	出荷額最大
H4	84	△ 2.3	18,802	
9	49	△ 9.3	12,265	
14	23	△34.3	2,811	
17	15	7.1	2,122	
18	9	△40.0	—	
19	10	11.1	—	
20	7	△30.0	—	
21	8	14.3	—	
22	8	0.0	—	

資料：静岡県「工業統計調査報告書」品目編 従業者4人以上の事業所

(注) 事業所の減少により、平成18年から出荷額が秘匿となった。

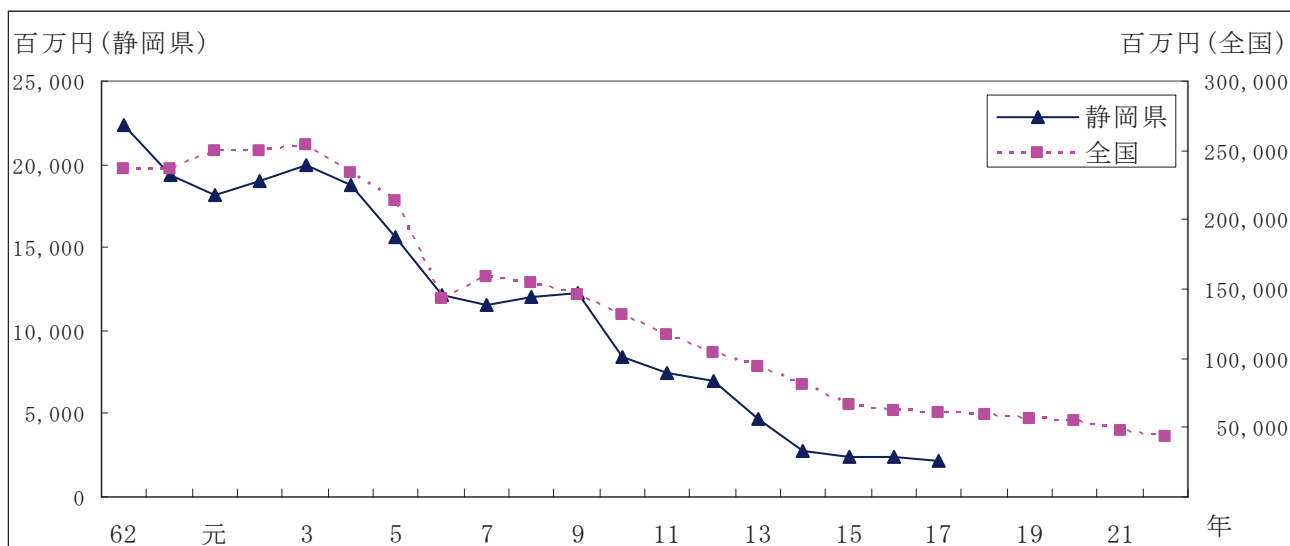
イ 全国

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考
		前年比	前年比	
S62	962	—	235,829	
H3	861	0.8	254,303	出荷額最大
4	801	△ 7.0	233,846	
9	519	△ 6.7	145,443	
14	337	△17.2	81,285	
17	276	2.2	60,960	
18	244	△11.6	59,193	
19	213	△12.7	56,580	
20	217	1.9	54,978	
21	197	△ 9.2	48,024	
22	171	△13.2	43,796	

資料：経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所

## ○ サンドル製造品出荷額の推移



### (4) 輸入の状況 (全国)

#### ア 年別状況

(単位：百万円、%、千足)

年	金額		足数	
	前年比	前年比	前年比	前年比
17	38,882	27.0	91,601	12.5
18	42,277	8.7	92,651	1.1
19	44,792	5.9	93,788	1.2
20	40,327	△10.0	92,014	△1.9
21	35,694	△11.5	84,927	△7.7
22	31,799	△10.9	80,899	△4.7

#### イ 平成22年分の状況

(単位：百万円、%、千足)

地域	金額			足数		
	前年比	構成比	前年比	前年比	構成比	
中国	28,494	△10.4	89.6	76,973	△3.9	95.2
インドネシア	450	△20.2	1.4	1,026	△22.4	1.3
ベトナム	415	△52.5	1.3	895	△22.6	1.1
台湾	226	△22.6	0.7	514	△30.3	0.6
ドイツ	1,047	21.0	3.3	423	22.6	0.5
スペイン	240	24.4	0.7	190	2.7	0.2
タイ	81	△26.4	0.3	186	△26.2	0.2
その他	846	△15.9	2.7	692	△15.0	0.9
計	31,799	△10.9	—	80,899	△4.7	—

資料：財務省関税局「貿易統計」



# 木 工 機 械

## (1) 沿 革

江戸時代末期、幕府が長崎造船所の設置にあたり、オランダ商人から長鋸、丸鋸、ヤスリなどを購入し、我が国においていわゆる木工機械が初めて使われるようになった。やがて、明治維新を迎えると木工機械はもっぱら官営工場で使われた。一方、民間需要として普及していたのは製材機械で、他の木工機械はこれより十数年遅れて浸透した。

静岡県は、江戸時代から消費都市的な色彩が強かったため、機械製造工業の発展は遅れたが、明治以降、県西部地域で、天竜川を利用して運び出される木材を中心とした製材業が隆盛したことから、製材用の鋸製造工場も多く設立された。また、豊富な森林資源を活用した木工製品が普及し始め、特に茶箱、下駄、鏡台、家具において量産機械化の必要が生じたため、大正時代になると、合板・木工機械メーカーも現れ、次第にこれらを中心とした機械業者が勃興した。一大発展の時期は、第二次世界大戦後の高度成長時代であり、技術革新も著しく、住宅、家具の量産、楽器産業の発展に伴って、国際市場で十分競争できるまでに成長し、現在では、全国一の木工機械産地を形成している。

## (2) 現 状 と 課 題

木工機械産業界は、本県の地場産業である木製家具業界や木製雑貨業界をはじめ、住宅資材の供給者である木材加工業界とも密接に関わっているため、家具産業の不振はもとより、平成2年に新設住宅着工戸数170万戸を記録して以来低迷が続く住宅産業などの影響を受け、その出荷額は平成2年をピークに減少傾向で推移してきたが、バブル期に導入した機械の更新需要や、住宅産業の激しい競争を背景とした高性能な機械生産の要請により、15年以降、出荷額は増加傾向で推移していた。

しかしながら、木工機械に対する需要は、単発的なもの、特注的なものが中心であるため、受注先の動向に左右されやすく、平成18年の姉齒耐震強度偽装事件の影響による住宅着工件数の減少に続き、平成20年のリーマンショックに端を発する世界同時不況などにより、新たなユーザー開拓や、経営基盤強化を図ることができない一部企業にとって、依然、厳しい環境となっている。

取引市場では、新規受注が激減し、中古品取引が大半となっている。

業界としては、ユーザーの効率化・省力化・高性能化の要請への対応はもとより、きめ細かいアフターサービスや、木製家具及び木製雑貨業界のニーズを先取りし、安全性や環境面、コストパフォーマンスにも配慮した新技術の開発、さらに新たな需要や販路開拓を図ることが求められている。

そのような中、平成24年度の「静岡木工/産業機械展」は、初めて「シズオカ[KAGU]メッセ」と同時期に開催し、新たな顧客獲得を目指した。出展された製品の傾向は、多品種少量でユーザーの要望物件に対応した機械が多く、来場者の反応も良かった。今後はアフターサービスを含め、ユーザーと長く付き合っていく努力が重要となっている。

### (3) 木工機械製造業の推移

#### ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	従業者数		製造品 出荷額等		全国シェア	備考
		前年比	前年比	前年比	前年比		
S56	109	—	2,632	—	34,123	28.3	
61	95	0.0	2,243	1.1	36,085	33.3	
<b>H2</b>	110	5.8	2,459	2.3	61,783	28.5	出荷額等最大
3	101	△8.2	2,320	△5.7	60,934	28.1	
8	90	2.3	2,098	△3.2	45,696	27.4	
13	41	△19.6	815	△15.2	17,455	22.7	
17	40	25.0	865	7.7	22,087	31.7	
18	41	2.5	965	11.6	23,912	35.0	
19	33	△19.5	874	△9.4	22,216	29.6	
20	35	6.1	757	△13.4	16,837	26.3	
21	34	△2.9	717	△5.3	11,514	29.1	
22	30	△11.8	687	△4.2	10,547	31.6	

資料：静岡県「工業統計調査報告書」産業編 従業者4人以上の事業所

#### イ 全国

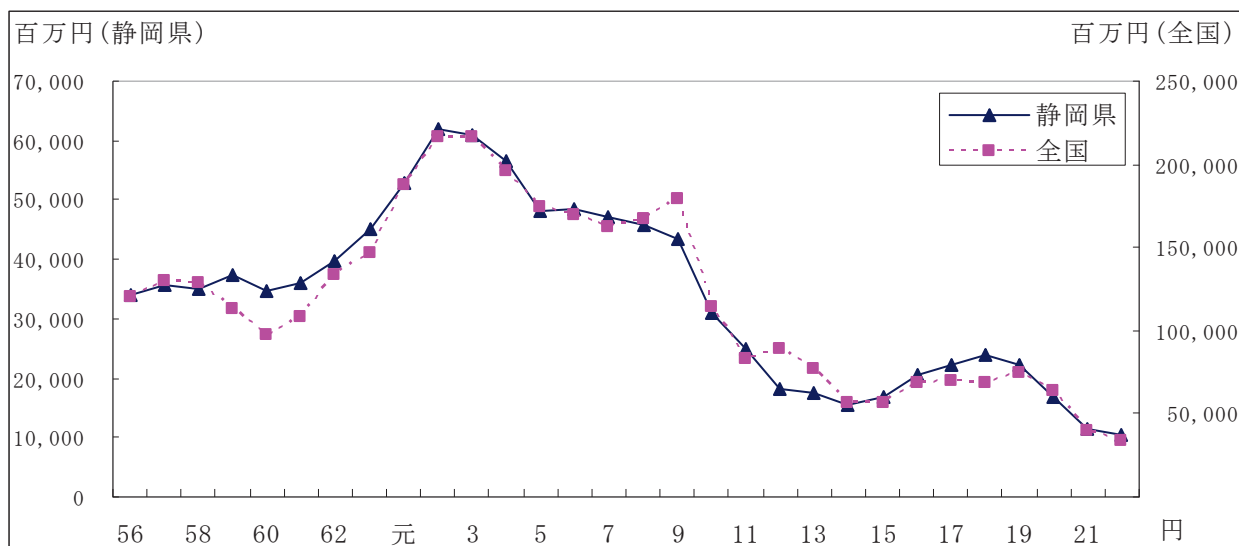
(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	従業者数		製造品 出荷額等		備考
		前年比	前年比	前年比	前年比	
S56	490	—	9,955	—	120,465	
61	413	3.5	7,808	7.7	108,296	
<b>H3</b>	429	△5.5	9,070	△2.4	216,781	出荷額等最大
8	377	△1.3	8,119	△2.8	166,662	
13	244	△14.1	4,257	△13.3	76,981	
17	188	3.9	3,235	△0.1	69,654	
18	170	△9.6	3,138	△3.0	68,245	
19	168	△1.2	3,235	3.1	74,954	
20	173	3.0	3,084	△4.7	63,953	
21	158	△8.7	2,765	△10.3	39,541	
22	140	△11.4	2,294	△17.0	33,427	

資料：経済産業省「工業統計表（産業編）」従業者4人以上の事業所



## ○ 木工機械製造品出荷額等の推移



## ウ 全国シェア（製造品出荷額等ベース）

年別	1位		2位		3位		4位		5位	
	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%
17	静岡	31.7	愛知	26.8	三重	9.0	徳島	5.9	北海道	4.9
18	静岡	35.0	愛知	24.1	三重	10.5	北海道	6.8	徳島	2.8
19	静岡	29.6	愛知	24.7	北海道	8.5	三重	7.9	大阪	3.5
20	愛知	30.4	静岡	26.3	三重	8.0	北海道	5.8	広島	3.9
21	愛知	31.0	静岡	29.1	三重	7.9	北海道	4.3	広島	2.0
22	愛知	33.1	静岡	31.6	北海道	5.2	徳島	5.0	大阪	2.8

資料：経済産業省「工業統計表（産業編）」従業者4人以上の事業所



# 木製雑貨

## (1) 沿革

静岡県の木製雑貨産業は、輸出によって発展してきたため、一般には「輸出雑貨」と呼ばれ、木製宝石箱、木製台所用品を主体に生産してきた。

その起源は、江戸時代末期に長崎から漆器が諸外国に輸出されたのが始まりといわれ、伝統的な漆塗り技術の集積がその根底にあった。静岡の漆器は、我が国の重要な輸出品として大正初期まで盛んに輸出されていたが、第一次世界大戦が始まると市場であったヨーロッパ諸国が戦場となり、漆器の輸出は衰退していった。しかし、第二次世界大戦後、進駐軍の土産品としてオルゴール付宝石箱が売れたことを契機に、アメリカへの輸出が増大した。

昭和 30 年代初めごろから、漆器宝石箱の需要は減少したが、海外バイヤーが見本を持ち込んで産地企業に作らせたヨーロッパ調デザインの木製宝石箱の需要が伸び、昭和 40 年ごろには輸出商品の主力となった。

しかし、昭和 46 年のドルショック以降輸出は激減し、産地内においても内需関連業種に転換する業者が相次ぎ、現在では、内需向け商品が 9 割以上を占めており、木製宝石箱、ミニ家具、ソーイングボックスなど、商品の多様化が急速に進展した。

## (2) 現状と課題

本県の木製雑貨産業は、宝石箱、ソーイングボックス、木製インテリア雑貨などの製造が中心であり、一貫生産を行うメーカーが少なく、産地問屋が木地、挽物、塗装などの専門工程を下職に分業させる形態が大半である。

業界を取り巻く環境は、長期化する景気の低迷の影響により市況全体の悪化が続いている。特に、低価格帯の商品については、東南アジアからの輸入品が大きくシェアを伸ばしており、厳しい傾向にある。

業界では、全国規模の展示会や首都圏での物産展へ継続的に出展し、販路拡大に力を入れているほか、安価な輸入品に対抗するため、高度な技術力を活かした高品質な特注品や海外生産では対応が難しい小ロット生産などを手がけ、差別化を図っている。

### (3) 木製雑貨製造業の推移

#### ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数		製造品 出荷額	前年比		全国シェア	備考
		前年比					
S62	39	—	3,509	—	11.0		
H3	35	6.1	4,203	37.1	10.3	出荷額最大	
4	31	△11.4	3,522	△16.2	9.3		
9	18	△5.3	1,799	△0.1	7.6		
14	10	△9.1	285	△45.2	2.3		
17	6	△25.0	—	—	—		
18	6	0.0	—	—	—		
19	5	△16.7	—	—	—		
20	6	20.0	—	—	—		
21	4	△33.3	—	—	—		
22	5	25.0	—	—	—		

資料：静岡県「工業統計調査報告書」品目編 従業者4人以上の事業所  
 (注) 事業所の減少により、平成17年から出荷額が秘匿となった。

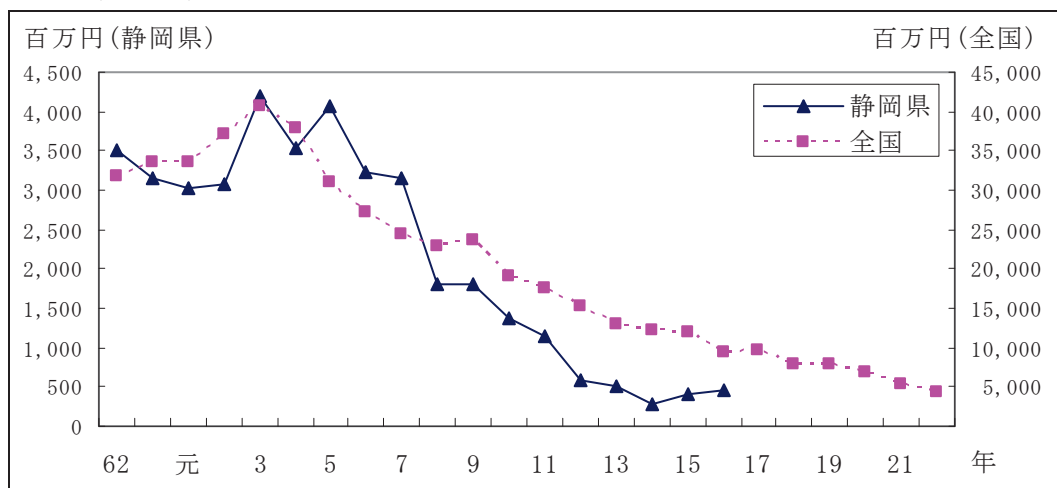
#### イ 全国

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数		製造品 出荷額	前年比		備考
		前年比				
S62	450	—	31,775	—		
H3	403	△7.4	40,676	9.7	出荷額最大	
4	397	△1.5	37,895	△6.8		
9	299	△1.6	23,545	3.2		
14	212	△2.8	12,170	△5.6		
17	174	△1.7	9,649	2.4		
18	162	△6.9	7,959	△17.5		
19	150	△7.4	7,834	△1.6		
20	147	△2.0	6,971	△11.0		
21	128	△12.9	5,313	△23.8		
22	127	△0.8	4,200	△20.9		

資料：経済産業省「工業統計表(品目編)」従業者4人以上の事業所

#### ○ 木製雑貨製造品出荷額の推移



# プラモデル

## (1) 沿革

静岡県のプラモデル産業は、木製模型飛行機の製造が元となっており、昭和7年に青島次郎氏が完成品を製造、販売したことがその発祥である。当時、日中戦争の最中であったことから、戦争機運の高まりとともに、模型飛行機の製造は全国的に広まっていった。

第二次世界大戦中、模型飛行機が学校用教材とされ、本県が重要木工具の指定を受けていたことから、他の木工関連産業が原料不足などにより生産不可能となる中、順調に生産を続けていった。

戦後、模型飛行機の製造が禁止されていた時期には木製教材を製造していたが、昭和25年以降、欧米からプラモデルが輸入されるようになると、木製模型の市場は急速に縮小していった。この時期にいち早く素材転換に成功したのが、タミヤ、アオシマ、ハセガワなどのメーカーであり、飛行機、戦車、船、自動車などのスケールモデルを中心に生産を拡大していった。

本県メーカーは、木製模型教材からの先発メーカーとして業界の先導役となるとともに、昭和30年代後半からのスロットルレーシングカーやキャラクター商品、昭和51年のスーパーカー、昭和55年のガンダム、昭和61年のレーサーミニ四駆など次々にヒット商品を生み出し、現在、本県は世界的にも注目されるプラモデルの産地となっている。

## (2) 現状と課題

静岡県は、全国のプラモデル生産の約9割という圧倒的シェアを誇るプラモデル産地であり、毎年5月に開催される「静岡ホビーショー」は、国内外のバイヤーが注目する全国有数の展示会である。

また、静岡市は、その時期を「シズオカホビーウィーク」として、プラモデル、模型に関するイベントを開催するなど、「ホビーのまち静岡」推進事業としてPR事業等を実施し、業界及び地域経済の活性化を図っている。

国内では、少子化やコンピューターゲームとの競合等の嗜好の多様化などを背景に市場が縮小傾向にあるものの、海外ではプラモデルへの注目度が上昇し、中国などの経済新興地域で購買層は広がっている。

業界では、労働コストの安い海外での生産を拡大することによって、収益の向上を図るとともに、作る面白さを様々な人たちに知ってもらえるよう、親子でともに楽しめるような商品や女性でも楽しめるような商品の開発を行っている。

平成23年には、JR静岡駅前に「静岡ホビースクエア」が開館し、業界の情報発信基地として、メーカー各社の最新模型の展示や各種イベントが行われている。

### (3) プラモデル製造業の推移

#### ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考
		前年比	前年比	
S62	21	—	24,410	78.4
H元	21	0.0	36,404	76.6
4	23	15.0	18,410	70.6
9	21	△25.0	14,404	60.8
14	21	△8.7	16,323	88.5
17	15	△11.8	15,275	90.9
18	17	13.3	10,557	79.2
19	15	△11.8	8,842	78.0
20	17	13.3	16,035	80.5
21	14	△17.6	12,798	90.7
22	15	7.1	11,998	91.7

資料：静岡県「工業統計調査報告書」品目編 従業者4人以上の事業所

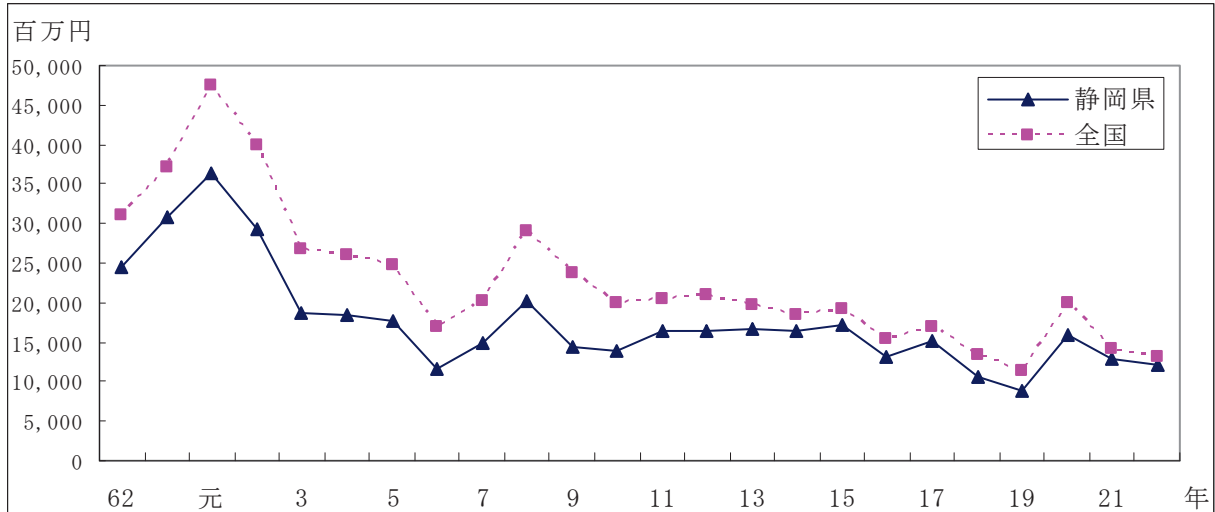
#### イ 全国

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考
		前年比	前年比	
S62	42	—	31,140	—
H元	45	2.3	47,515	28.1
4	45	7.1	26,091	△2.7
9	47	△17.5	23,697	△18.7
14	38	△2.6	18,442	△6.0
17	29	△19.4	16,803	8.8
18	31	6.9	13,333	△20.7
19	35	12.9	11,334	△15.0
20	45	28.6	19,927	75.8
21	32	△28.9	14,111	△29.2
22	33	3.1	13,084	△7.3

資料：経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所

## ○ プラモデル製造品出荷額の推移



## ウ 全国シェア（製造品出荷額ベース）

年別	1位		2位		3位		4位	
		%		%		%		%
17	静岡	90.9	東京	2.0	—	—	—	—
18	静岡	79.2	東京	10.6	埼玉	2.1	茨城	1.4
19	静岡	78.0	埼玉	6.8	東京	5.4	茨城	2.0
20	静岡	80.5	埼玉	5.9	大阪	2.5	東京	2.2
21	静岡	90.7	埼玉	2.6	愛知	1.2	東京	0.8
22	静岡	91.7	埼玉	2.2	東京	1.5	茨城	1.1

(注) 経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所の都道府県別出荷額をもとに算出

## (4) 輸出の状況（全国）

### ア 年別状況

(単位：千円、%)

年別	輸出金額	
		前年比
17	1,675,414	△9.9
18	1,724,484	2.9
19	1,618,153	△6.2
20	1,632,745	0.9
21	1,313,833	△19.5
22	1,046,308	△20.4

### イ 平成22年分の状況

(単位：千円、%)

地域	輸出金額		
		前年比	構成比
ドイツ	271,601	△16.5	26.0
香港	186,400	△4.5	17.8
アメリカ	143,235	0.4	13.7
イギリス	139,959	△28.2	13.4
スイス	34,901	2.7	3.3
オーストラリア	33,671	△49.8	3.2
イタリア	26,667	△36.5	2.6
台湾	23,431	13.2	2.2
フィリピン	22,438	△53.9	2.2
中国	22,234	50.1	2.1
オランダ	18,108	△41.2	1.7
その他	123,663	—	11.8
計	1,046,308	△20.4	—

資料：財務省関税局「貿易統計」





# 雛具・雛人形

## (1) 沿革

静岡市を中心に立地している雛具・雛人形業界は、全国有数の産地として知られ、昭和40年当時は、雛具の生産量が全国の約90%、雛人形の胴柄どうがらの生産量が全国の約70%を占めていた。

雛具は、江戸時代に静岡に根付いた木工漆工芸技術を応用して100年以上前に製造が始まり、明治から大正にかけてこの技術を駆使した高尚華麗な雛具が作られ、東京・大阪などへの出荷も盛んになった。雛具の繊細優雅な技巧は他の追随を許さず、大正末期から昭和にかけて出荷量を伸ばすとともに、昭和30年以降、他産地に先駆け、新素材を導入した大衆化製品により生産拡大を図り、全国有数の産地になった。

本県の雛人形製造は、約140年前に志太地方（現在の焼津・藤枝方面）で煉天神ねりてんじん（土天神）が作られたのが始めといわれ、天神人形、15人揃い、時代人形、五月人形が製造されている。大正から昭和にかけて、雛具の発展とともに静岡市を中心にして目覚ましい発展を遂げ、現在の産地形成に至った。

## (2) 現状と課題

業界を取り巻く環境は、少子化の進展や核家族化による需要の長期的減少、雛祭りをはじめとする伝統行事への関心低下が深刻化するなど、厳しさを増している。

近年は、「季節感を取り入れたインテリア」や「マイひな人形」として、雛人形を購入する女性が増え、季節感を演出するアイテムとして、子供のいる家庭以外にも幅広く受け入れられている。

組み立てが簡単で、シーズンが終わって収納する時、場所をとらないコンパクトな商品の売れ行きが好調であるが、それに伴い一品あたりの人形や道具の数は減少し、売上、収益は低下している。

これに対し、業界では、消費者に直に接する販売員の力量のアップを目的とした「節句人形アドバイザー」資格認定試験の実施、小学校への雛飾りの寄贈や人形供養などの節句行事の普及・啓発とともに、収納に便利な商品やキャラクターを使った変わり雛など、時代に即した商品を提供する努力を続けている。

また、本県は、部品の産地としての性格が強いため、メーカーと下請けが共に参加し、全国の販売業者に新作雛飾りを提案する見本市を毎年5月に各社展示場において開催するなど、静岡産地のPRや需要開拓に努めている。

(3) 雑具・雑人形製造業の推移

ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考
		前年比	前年比	
S62	103	—	13,104	出荷額最大
H4	76	△ 7.3	9,528	
9	65	3.2	7,961	
14	51	△ 5.6	4,717	
17	42	0.0	3,895	
18	36	△14.3	3,996	
19	29	△19.4	3,467	
20	35	20.7	4,566	
21	24	△31.4	3,067	
22	24	0.0	2,949	

資料：静岡県「工業統計調査報告書」品目編 従業者4人以上の事業

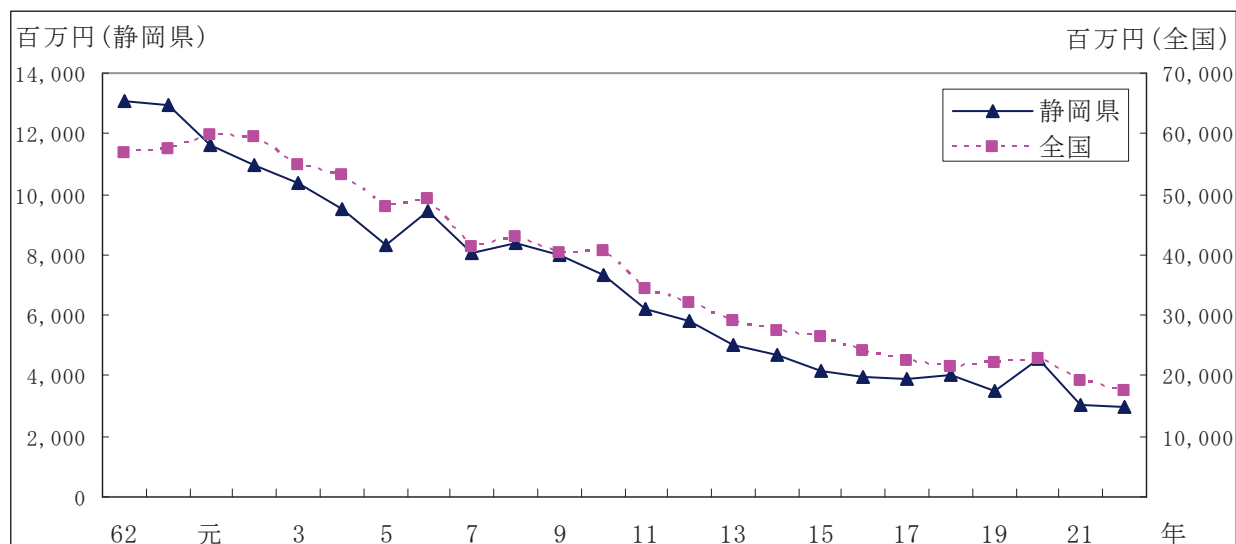
イ 全国

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考
		前年比	前年比	
S62	446	—	56,910	
H元	432	△ 9.1	59,854	出荷額最大
4	360	△10.7	53,223	
9	289	△ 7.4	40,399	
14	235	△ 4.1	27,261	
17	210	△ 4.1	22,585	
18	197	△ 6.2	21,423	
19	181	△ 8.1	22,261	
20	187	3.3	22,679	
21	165	△11.8	19,068	
22	160	△ 3.0	17,421	

資料：経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所

## ○ 雑具・雑人形製造品出荷額の推移



## ウ 全国シェア（製造品出荷額ベース）

年別	1位		2位		3位		4位		5位	
	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%
17	埼玉	34.6	静岡	17.2	東京	6.7	岡山	5.6	愛知	5.5
18	埼玉	34.9	静岡	18.6	福岡	10.2	愛知	6.1	岡山	5.9
19	埼玉	37.2	静岡	15.6	福岡	11.2	愛知	5.6	岡山	5.0
20	埼玉	32.0	静岡	20.1	福岡	11.1	岡山	6.3	愛知	5.3
21	埼玉	37.8	静岡	16.1	福岡	9.6	岡山	6.8	愛知	5.6
22	埼玉	39.9	静岡	16.9	岡山	6.9	愛知	6.8	福岡	6.8

(注) 経済産業省「工業統計表（品目編）」従業員4人以上の事業所の都道府県出荷額をもとに算出  
 なお、平成17年までは福岡県の出荷額が秘匿であったが、平成18年から公表されている。

## (4) 出生率（人口千人あたり）の推移

(単位：人、%)

年別	出生数(静岡)			出生数(全国)		
	出生数	前年比	出生率	出生数	前年比	出生率
S60	43,932	△3.7	12.3	1,431,577	△3.9	11.9
H17	31,908	△5.1	8.6	1,062,530	△4.3	8.4
18	32,905	3.1	8.8	1,092,674	2.8	8.7
19	33,274	1.1	9.0	1,089,818	△0.3	8.6
20	32,701	△1.7	8.8	1,091,156	0.1	8.7
21	31,901	△2.4	8.6	1,070,035	△1.9	8.5
22	31,896	△0.0	8.6	1,071,304	0.1	8.5

資料：厚生労働省「人口動態統計」



# 織 維

## (1) 沿 革

遠州地方は、気候が綿花の栽培に適し、江戸時代中期から日本でも有数の綿花の産地であった。そのため、農家が自給自足で始めた手織による綿織物が市場に売り出され、江戸時代後期には副業として定着した。

明治 17 年には、遠州地方に初めて洋式紡績工場が作られ、綿織物の生産量を大きく増やす要因となるとともに、明治 29 年に豊田佐吉氏により小幅力織機が発明され、この普及により綿織物業が盛んになった。

明治 37 年には福田町（現在の磐田市）でコール天の製織が、明治 43 年には別珍の製織が始まり、これ以後、一般綿織物を主力とする浜松地域と別珍・コール天を主力とする福田地域に分化していった。

また、第一次世界大戦によるヨーロッパ諸国の生産力低下により、内需中心から輸出指向に変わり、これに伴って小幅力織機から広幅力織機へと変換が進み、輸出を伸ばしてきた。

昭和初期には、福田地域が別珍・コール天の国内一の産地となり、昭和 8 年以降、日本の綿布輸出がイギリスを抜いて世界一となるなど、産地は活況を呈した。

第二次世界大戦中には、一時生産が落ち込んだものの、朝鮮戦争の特需で好景気を経た後、昭和 30 年代以降、生産過剰による不況に陥り、昭和 40 年代には、発展途上国の追い上げによる輸入の増大、先進諸国の保護貿易の風潮による輸出の減少により大きな打撃を受けた。

昭和 60 年のプラザ合意や円高の進展に伴い、繊維製品の輸出量の減少・輸入量の増加という状況が産地の生産量の減少の要因となった。平成 3 年のバブル崩壊以降の需要低迷に加え、中国をはじめとするアジア諸国からの安価な輸入品との競合により産地規模が縮小するなど、近年は厳しい状況が続いている。

## (2) 現 状 と 課 題

遠州地方で生産される繊維製品は、広幅織物、小幅織物、別珍・コール天といった衣料用織物を中心として多種多様であり、素材も綿のほかレーヨン、ポリエステルなどの合成繊維も混織されている。また、織り方も平織、綾織、変り織を始め、遠州地方特有のからみ織など多岐にわたり、染色も糸染めから注染、浸染、捺染など多様な技術が集積している。

しかし、個別企業としてみるとシーズン性のある衣料生地作りにとどまり、伝統的な分業体制が確立して賃織という取引形態が主流であるため、下請的な位置に陥りやすいという構造上の問題を抱えている。

このため、業界では、新製品開発、需要開拓、人材養成などの事業を行い、多品種・小ロット・短納期で対応する生産体制の構築や市場のニーズに基づいた企画提案を行うとともに、インテリア関係の展示会に出展するなど、衣料以外の分野への進出を図っている。

また、需要の低迷により国内市場が縮小しているため、国内はもとより欧米やアジアで通用する製品を開発し、海外バイヤーが訪れる首都圏での展示会に出展するなど、販路の拡大に力を入れている。なお、産地への首都圏デザイナーの招聘や東京都内での新製品の展示商談会などを実施し、ファッション業界などとの連携の強化も図っている。

(3) 繊維製造業の推移

ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	従業者数		製造品出荷額等		全国シェア	備考
		前年比	前年比	前年比	前年比		
S52	2,061	—	31,652	—	246,765	2.6	
57	1,853	△ 2.6	28,468	△ 2.1	301,161	△ 2.0	
<b>59</b>	1,777	△ 4.3	27,072	△ 1.9	326,755	6.6	<b>出荷額等最大</b>
62	1,497	△ 8.8	24,034	△ 5.0	287,601	△ 3.6	
H4	1,077	△ 9.6	18,604	△ 8.1	289,680	△ 3.7	
9	808	△ 0.9	13,208	△ 3.5	227,136	9.8	
14	562	△11.8	8,732	△10.3	148,715	△ 5.9	
17	501	3.7	7,074	△ 3.5	121,406	△ 3.9	
18	435	△13.2	6,556	△ 7.3	112,874	△ 7.0	
19	406	△ 6.7	6,352	△ 3.1	115,167	2.0	
20	408	0.5	6,748	6.2	129,243	12.2	
21	362	△11.3	6,063	△10.2	92,106	△28.7	
22	326	△ 9.9	5,599	△ 7.7	93,079	1.1	

資料：静岡県「工業統計調査報告書」産業編 従業者4人以上の事業所

(注) 平成19年まで「繊維工業」「衣服・その他の繊維製品製造業」の計、日本標準産業分類の改定により平成20年から「繊維工業」

イ 全国

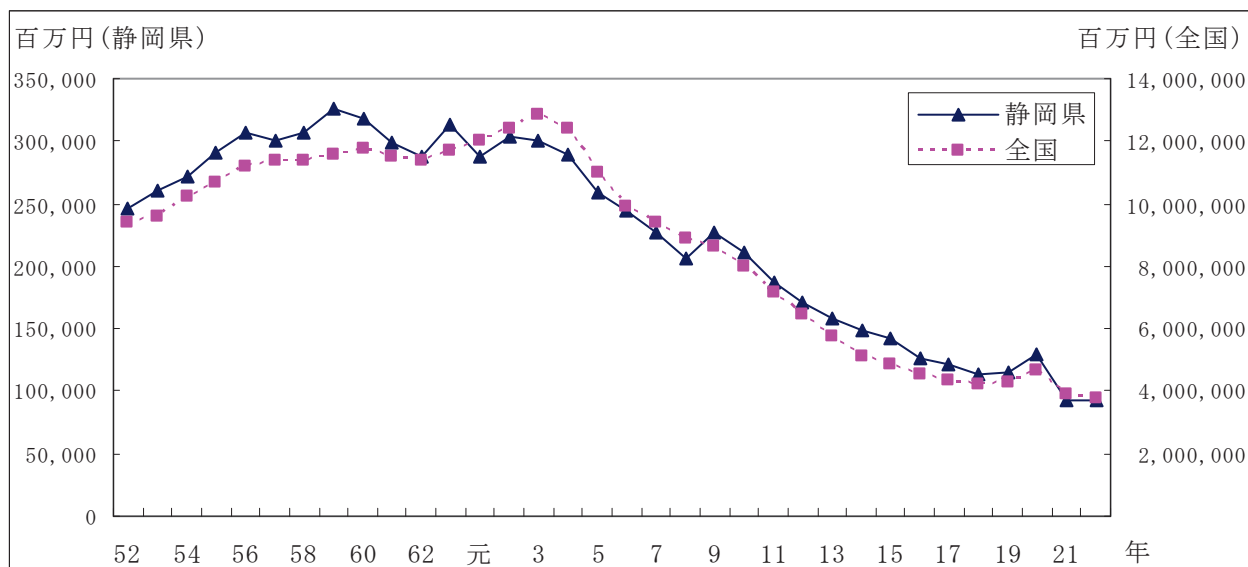
(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	従業者数		製造品出荷額等		備考	
		前年比	前年比	前年比	前年比		
S52	67,728	—	1,255,563	—	9,395,331	—	
57	67,938	△ 1.8	1,189,981	△ 1.1	11,409,477	1.7	
62	63,675	△ 3.7	1,134,225	△ 1.4	11,396,784	△ 0.7	
<b>H3</b>	61,403	△ 1.8	1,102,961	△ 0.5	12,853,350	3.9	<b>出荷額等最大</b>
4	58,540	△ 4.7	1,062,795	△ 3.6	12,385,948	△ 3.6	
9	42,857	△ 6.3	754,621	△ 6.1	8,638,454	△ 3.0	
14	27,271	△12.6	460,444	△10.6	5,129,537	△10.7	
17	23,082	0.3	380,352	△ 4.4	4,340,445	△ 4.7	
18	20,384	△11.7	358,077	△ 5.9	4,190,352	△ 3.5	
19	19,533	△ 4.2	349,599	△ 2.4	4,293,139	2.5	
20	19,847	1.6	347,720	△ 0.5	4,687,733	9.2	
21	17,151	△13.6	311,264	△10.5	3,868,190	△17.5	
22	15,902	△ 7.3	296,927	△ 4.6	3,789,828	△ 2.0	

資料：経済産業省「工業統計表（産業編）」従業者4人以上の事業所

(注) 平成19年まで「繊維工業」「衣服・その他の繊維製品製造業」の計、日本標準産業分類の改定により平成20年から「繊維工業」

## ○ 繊維工業製造品出荷額等の推移



## ウ 全国シェア（製造品出荷額等ベース）

年別	1位		2位		3位		4位		5位		備考
		%		%		%		%		%	
20	愛知	11.4	大阪	8.8	岡山	6.7	福井	5.9	滋賀	4.7	静岡・12位 (2.8%)
21	愛知	10.6	大阪	9.0	岡山	6.9	福井	5.9	石川	4.3	静岡・14位 (2.4%)
22	愛知	10.9	大阪	8.2	岡山	7.2	福井	6.1	滋賀	4.9	静岡・14位 (2.5%)

資料：経済産業省「工業統計表（産業編）」従業者4人以上の事業所

(注) 日本標準産業分類の改定により「繊維工業」[衣服・その他の繊維製品製造業]が統合され「繊維工業」となった平成20年分から掲載

## (4) 本県繊維製造の状況

### ア 広幅織物、小幅織物

(単位：千㎡、%)

年別	広幅織物						小幅織物	
			一般広幅織物		別珍・コール天			
	生産量	前年比	生産量	前年比	生産量	前年比	生産量	前年比
18	38,443	△ 2.8	34,188	0.1	4,256	△21.2	674	△ 1.2
19	34,649	△ 9.9	32,793	△ 4.1	1,856	△56.4	627	△ 7.0
20	30,945	△10.7	29,373	△10.4	1,572	△15.3	579	△ 7.7
21	22,583	△27.0	21,551	△26.6	1,032	△34.4	555	△ 4.1
22	21,332	△ 5.5	20,404	△ 5.3	928	△10.1	486	△12.4
23	21,837	2.4	20,746	1.7	1,091	17.6	488	0.4

資料：遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合及び浜松織物協同組合

## イ 広幅織物染色

(単位：千㎡、%)

年別	生産量	前年比
18	94,429	△10.9
19	80,084	△15.2
20	78,329	△ 2.2
21	65,703	△16.1
22	68,579	4.4
23	71,005	3.5

資料：静岡県織物染色協同組合



# 楽 器

## (1) 沿 革

静岡県の楽器産業は、明治20年に山葉寅楠<sup>やまは とらくす</sup>氏が、小学校の舶来のオルガンを修理したのがその発祥といわれ、さらに彼は、音楽教育の必要性に着目し、明治21年山葉風琴<sup>ふうきん</sup>製造所を設立、明治30年には同所を日本楽器(株)(現在のヤマハ(株))に改め、今日の楽器産業の基礎を築いた。

その後、昭和2年に同社を退社した河合小市<sup>こいち</sup>氏が河合楽器研究所(現在の(株)河合楽器製作所)を設立し、楽器総合メーカーとして急速に発展していった。

戦後、昭和22年から器楽教育が開始され、教育用楽器に対する需要が急増し、朝鮮戦争の特需ブームとあいまって市場は活況を呈した。このころの主力製品は、単価の安いハーモニカ、木琴、ウクレレなどであった。

昭和30年代の高度経済成長期には、オルガン教室や予約販売制度が普及し、技術革新や大量生産システムの確立が進み、オルガンの生産販売が飛躍的に伸びた。

昭和40年代前半は、ピアノ、オルガンが中心であったが、電子オルガンの登場により、オルガンの生産は、昭和44年の55万台をピークに急速に縮小していった。一方、小・中・高等学校でブラスバンドが急速に普及し、管楽器類の生産が伸びたのもこのころである。

昭和50年代前半は、ピアノ、電子オルガンが中心であったが、電子ピアノ、電子キーボードの登場により、昭和55年のピアノ39万台、電子オルガン38万台をピークにその生産は、徐々に減少している。昭和60年代以降は、デジタル技術の向上とともに電子楽器の売上が伸びたが、楽器全体の全国の出荷額は平成3年をピークに減少している。

## (2) 現状と課題

本県の楽器産業は、製造品出荷額が全国シェア73.1%(平成22年)であり、生産量とともに技術的にも国内外にわたって高い評価を受けている。

楽器業界を取り巻く環境は、国内市場では、少子化による需要の減少や安価な電子楽器の普及により、厳しい状況が続いているものの、海外市場では、欧米の市場や富裕層が拡大している中国などの新興国の市場で販売の拡大が見られる。

大手メーカーでは、高付加価値の新製品の開発、ショッピングセンター内での音楽教室の新規展開などを行い、競争力の強化を図っている。また、国内工場の見直しや生産拠点の海外移転などにより、生産体制の合理化を図っている。

中小メーカーでは、各社の得意分野を生かして、オーダーメイド製品の製造、ピアノのリフォーム、独自の付加価値を持った商品の開発などに取り組み、市場のニーズに対応している。

(3) 楽器製造業の推移

ア 静岡県

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考
		前年比	前年比	
S62	173	—	362,604	出荷額最大
H4	184	△ 9.8	305,929	
9	160	2.6	279,835	
14	131	△ 7.7	163,368	
17	103	1.0	155,235	
18	92	△10.7	137,457	
19	87	△ 5.4	113,021	
20	94	8.0	110,989	
21	90	△ 4.3	100,558	
22	86	△ 4.4	83,918	

資料：静岡県「工業統計調査報告書」品目編 従業者4人以上の事業所

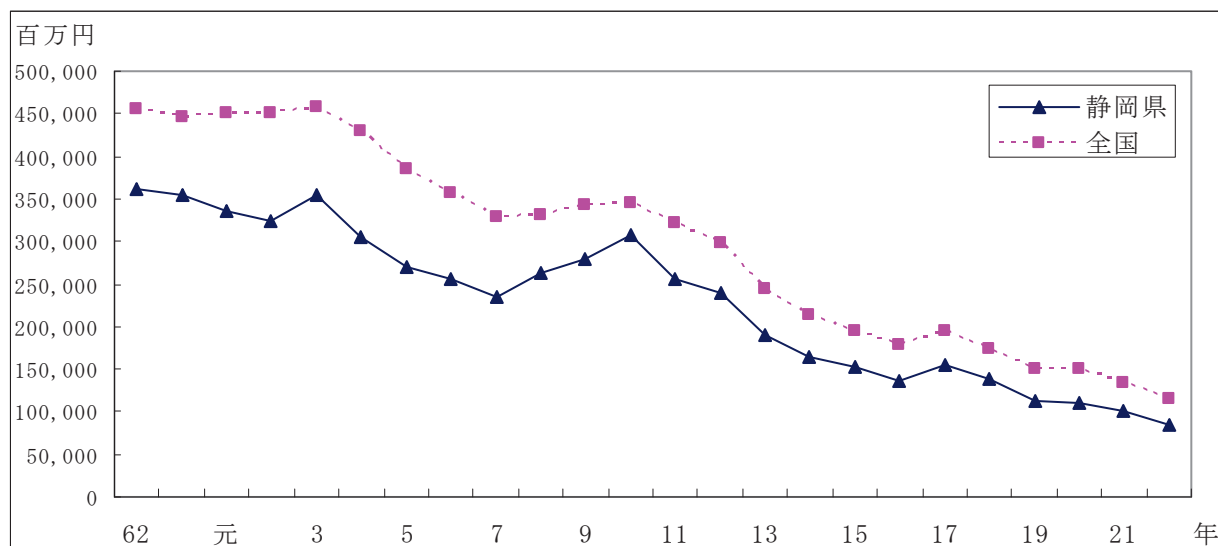
イ 全 国

(単位：人、百万円、%)

年別	事業所数	製造品 出荷額		備考
		前年比	前年比	
S62	514	—	454,236	
H3	532	△ 3.1	458,724	出荷額最大
4	490	△ 7.9	429,700	
9	435	2.8	342,873	
14	366	△ 8.0	212,938	
17	342	△ 1.4	193,681	
18	324	△ 5.3	174,011	
19	319	△ 1.5	151,385	
20	338	6.0	150,224	
21	309	△ 8.6	132,696	
22	300	△ 2.9	114,815	

資料：経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所

## ○ 楽器製造品出荷額の推移



## ウ 全国シェア（製造品出荷額ベース）

年別	1位		2位		3位		4位		5位	
	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%
17	静岡	80.1	埼玉	6.2	長野	3.1	東京	1.6	愛知	1.5
18	静岡	79.0	埼玉	7.0	長野	3.2	愛知	1.7	東京	1.7
19	静岡	74.7	埼玉	7.3	長野	4.2	愛知	2.2	東京	2.0
20	静岡	73.9	埼玉	7.3	長野	4.5	東京	2.2	愛知	2.2
21	静岡	75.8	埼玉	8.1	長野	3.9	東京	2.5	群馬	0.9
22	静岡	73.1	埼玉	8.3	長野	4.3	東京	2.7	北海道	1.8

(注) 経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所の都道府県出荷額をもとに算出

## (4) ピアノの輸出入状況

### ア 輸出

(単位：台、%、百万円)

年別	台数		金額	
	前年比	前年比	前年比	前年比
18	104,897	△ 3.4	29,212	△ 0.8
19	112,486	7.2	31,164	6.7
20	112,149	△ 0.3	28,649	△ 8.1
21	104,379	△ 6.9	20,272	△ 29.2
22	114,371	9.6	23,200	14.4
23	116,152	1.6	22,676	△ 2.3

### イ 輸入

(単位：台、%、百万円)

年別	台数		金額	
	前年比	前年比	前年比	前年比
18	4,753	16.1	2,875	13.2
19	6,685	40.6	3,190	11.0
20	3,971	△ 40.6	2,499	△ 21.7
21	3,407	△ 14.2	1,894	△ 24.2
22	5,531	62.3	2,168	14.5
23	8,598	55.5	2,430	12.1

資料：財務省関税局「貿易統計」（台数、出荷額はアップライトピアノとグランドピアノの合計）

## (5) 本県主要楽器の販売状況

(単位：台、%、百万円)

種類	年	年間販売状況					うち輸出				
		台数	前年比	金額	前年比	構成比	台数	前年比	金額	前年比	
ピアノ	21	97,826	△25.9	24,776	△32.3	39.6	77,694	△29.0	12,804	△43.8	
	22	119,073	21.7	26,484	6.9	41.0	102,717	32.2	16,096	25.7	
	23	44,167	△62.9	23,562	△11.0	40.2	26,003	△74.7	13,034	△19.0	
管楽器	21	192,769	△10.1	13,957	△21.5	22.3	146,817	△7.3	9,551	△22.3	
	22	184,895	△4.1	13,309	△4.6	20.6	140,879	△4.0	9,052	△5.2	
	23	150,047	△18.8	12,810	△3.7	21.9	106,630	△24.3	7,925	△12.5	
電気・電子ピアノ	21	145,750	△19.0	12,492	△20.4	20.0	51,691	△31.6	4,354	△34.4	
	22	156,445	7.3	13,605	8.9	21.1	54,093	4.6	4,814	10.6	
	23	148,399	△5.1	12,650	△7.0	21.6	46,243	△14.5	3,603	△25.2	
電子オルガン	21	14,180	△14.6	3,859	△20.0	6.2	1,419	△25.9	320	△38.8	
	22	14,630	3.2	3,597	△6.8	5.6	3,150	122.0	475	48.4	
	23	11,370	△22.3	2,907	△19.2	5.0	1,166	△63.0	287	△39.6	
電子キーボード	21	99,823	△21.3	3,023	26.7	4.8	30,671	△46.9	1,941	△33.2	
	22	97,611	△2.2	3,037	0.5	4.7	38,876	26.8	2,096	8.0	
	23	70,690	△27.6	2,566	15.5	4.4	10,304	△73.5	1,585	△24.4	
キーボード シンセサイザー	21	37,837	△37.4	2,959	△51.1	4.7	30,768	△42.5	2,415	△55.9	
	22	45,087	19.2	3,424	15.7	5.4	37,442	21.7	2,896	19.9	
	23	38,430	△14.8	2,963	13.5	5.0	32,670	△12.7	2,537	△12.4	
電気ギター	21	30,637	△30.7	948	△27.9	1.5	11,043	△33.4	314	△32.8	
	22	27,829	9.2	849	△10.4	1.4	9,235	△16.4	284	△9.6	
	23	25,396	△8.7	709	△16.5	1.2	6,903	△25.3	209	△26.4	
ギター	21	29,107	△39.9	587	△44.1	0.9	8,495	△63.0	201	△61.9	
	22	18,532	△36.3	333	△43.3	0.2	448	△94.7	25	△87.6	
	23	23,469	26.6	394	18.3	0.7	736	64.3	34	36.0	
合計	21	—	—	62,601	△28.4	—	—	—	31,900	△38.2	
	22	—	—	64,638	3.3	—	—	—	35,738	12.0	
	23	—	—	58,561	△9.4	—	—	—	29,214	△18.3	

資料：「静岡県楽器製造協会月報」

(注1) 資料の数値は、静岡県楽器製造協会加入企業（11社）の主要完成品を対象に算出したもので、部分品、付属品、取付具の出荷額は計上されていない

(注2) 構成比は、楽器販売額総合計に占める各楽器の販売額の割合である

(注3) 集計方式が平成23年から変更（ノックダウン生産分除外）されたため、平成23年の前年比は参考

# オートバイ

## (1) 沿革

県西部地域は、織機工業、楽器工業の技術蓄積があった上、第二次世界大戦中に繊維産業が軍需産業に転換したため、機械技術の幅が一層広がり、戦後、これらの技術を基盤としてオートバイ産業が登場した。昭和30年代には、40社あまりの企業が参入したが、激しい競争の中で企業が集約された。現在は国内4大メーカーのうち、本田技研工業、スズキ、ヤマハ発動機の3社の工場及びブレーキやマフラーなどの関連部品を生産する企業が数多く立地し、二輪車生産の一大拠点となっている。

昭和21年、浜松市に本田技術研究所（現在の本田技研工業株）を開設した本田宗一郎氏は、無線機用発電エンジンを改造し自転車にとり付けたバイクモーターを生産、昭和24年にエンジンと車体の一貫生産に乗り出した。昭和33年には、当時世界唯一の4サイクルで高性能な「スーパーカブ」を販売した。平成20年、二輪車の生産は浜松から熊本へと完全移管された。

鈴木式織機（現在のスズキ株）は、昭和11年からオートバイと軽自動車の研究を始め、試作車を開発したが、戦争の拡大とともに軍需品の発注が急増したため、オートバイエンジンの研究を中断した。昭和27年、バイクモーターのパワーフリー号を発売、昭和29年からは、「コレダ」という名称のオートバイを生産した。

楽器メーカーの日本楽器（現在のヤマハ株）は、昭和28年にオートバイ産業に参入した。軍需品生産で蓄積した技術と設備をオートバイ生産に転用し、10か月で試作車を完成させた。昭和30年から発売された「赤トンボ」というニックネームのオートバイは、操縦性、砂利路などの安定性が抜群だったので、爆発的売上が誇った。

オートバイは、昭和30年代後半ごろまで、手ごろな市民の足として国内需要は増大し、昭和40年代以降は価格や品質、性能などの競争力を武器として、輸出を中心に飛躍的な発展を遂げたが、国内需要の成熟化や海外市場の冷え込みにより、昭和56年をピークに生産台数は急激に減少した。

## (2) 現状と課題

海外（輸出）向けの生産については、経済成長が著しい東南アジア諸国やインドなどの新興国では需要が拡大しているが、先進国市場では景気悪化から需要が減り、円高の影響もあり生産額は減少した。更なる成長が望める新興国での市場拡大に向け、積極的な新機種投入や開発の効率化、生産能力の増強を図る動きが見られる。

国内市場については、震災の復興需要と関連して二輪車の機動力などへの感心が高まったものの、需要は低調で生産高は減少した。

メーカー各社では、円高環境下での収益体質の強化に向け、部品の海外調達比率の引き上げを進めているほか、限定車や特別仕様車などの導入により、国内市場の活性化を図る動きが見られる。

### (3) オートバイ製造業の推移（遠州地域のみ）

#### ア 生産高

（単位：百万円、％）

年別	区分	総合計	前年比	輸出向け		内需向け
				完成車	KD	
18		602,055	△ 9.3	322,616	251,640	27,799
19		391,950	△34.9	302,100	61,669	28,181
20		322,198	△17.8	223,442	81,296	17,460
21		128,653	△60.1	89,752	29,736	9,165
22		128,489	△ 0.1	101,035	21,079	6,375
23		105,183	△18.1	81,186	18,891	5,106

資料：浜松商工会議所

（参考）KD（ノックダウン）：部品セットのまま輸出して、現地で組み立てて、完成品にする方式。

#### イ 輸出向けの排気量別内訳

##### ・完成車

（単位：百万円、％）

年別	区分	50cc以下		51cc～125cc		126cc～250cc		251cc～		計	
		生産高	前年比	生産高	前年比	生産高	前年比	生産高	前年比	生産高	前年比
18		559	△34.6	8,768	△30.4	29,052	△16.4	284,237	7.5	322,616	3.2
19		497	△11.1	8,830	0.7	27,009	△ 7.0	265,764	△ 6.5	302,100	△ 6.4
20		456	△ 8.2	8,358	△ 5.3	24,134	△10.6	190,494	△28.3	223,442	△26.0
21		178	△61.0	3,349	△59.9	8,165	△66.2	78,060	△59.0	89,752	△59.8
22		273	53.4	4,782	42.8	8,613	5.5	87,367	11.9	101,035	12.6
23		755	176.6	3,941	△17.6	7,519	△12.7	68,971	△21.1	81,186	△19.6

資料：浜松商工会議所

##### ・KD

（単位：百万円、％）

年別	区分	50cc以下		51cc～125cc		126cc～250cc		251cc～		計	
		生産高	前年比	生産高	前年比	生産高	前年比	生産高	前年比	生産高	前年比
18		1,277	△31.7	192,965	△24.3	16,517	△12.7	40,881	△10.6	251,640	△21.7
19		1,138	△10.9	17,931	△90.7	11,906	△27.9	30,694	△24.9	61,669	△75.5
20		577	△49.3	20,088	12.0	13,741	15.4	46,890	52.8	81,296	31.8
21		197	△65.9	10,117	△49.6	7,291	△46.9	12,131	△74.1	29,736	△63.4
22		306	55.3	10,423	3.0	9,169	25.8	1,181	△90.3	21,079	△29.1
23		169	△44.8	7,937	△23.9	9,782	6.7	1,003	△15.1	18,891	△10.4

資料：浜松商工会議所

#### ウ 内需向けの排気量別内訳

##### ・完成車

（単位：百万円、％）

年別	区分	50cc以下		51cc～125cc		126cc～250cc		251cc～		計	
		生産高	前年比	生産高	前年比	生産高	前年比	生産高	前年比	生産高	前年比
18		3,206	△ 1.7	309	0.3	9,960	△17.3	14,324	0.0	27,799	△ 7.1
19		2,590	△19.2	250	△19.1	12,597	26.5	12,744	△11.0	28,181	1.4
20		13	△99.5	265	6.0	5,116	△59.4	12,066	△ 5.3	17,460	△38.0
21		7	△46.2	39	△85.3	4,749	△ 7.2	4,370	△63.8	9,165	△47.5
22		269	3,842.9	35	△10.3	4,062	△14.5	2,009	△54.0	6,375	△30.4
23		177	△34.2	25	△28.6	3,135	△22.8	1,769	△11.9	5,106	△19.9

資料：浜松商工会議所

# 水産缶詰

## (1) 沿革

昭和初期に清水市（現在の静岡市清水区）で産声を上げた缶詰産業は、夏は清水港や焼津港で水揚げされるマグロやカツオを原料とするツナ缶、冬は地元で採れるミカンを原料とするミカン缶と、1年を通じて操業できる体制で始まり、全国屈指の産地を形成し、輸出品の花形として繁栄してきた。

しかし、昭和46年のドルショックを皮切りに、オイルショックによる燃料費の高騰などによって原料事情が悪化し、さらに発展途上国が台頭してきたため、内需志向型へと転換した。現在は、新商品の開発や飲料缶への進出で生き残りを図っている。

## (2) 現状と課題

水産缶詰は、まぐろ缶詰の製造品出荷額が全国シェア93.1%（平成22年）を誇っているものの、世界的な水産資源の保護意識の高まりによる漁業規制の強化や漁獲数量の管理、魚の需要拡大や原油高の影響を受け、魚価の高騰が定着しているなど様々な問題を抱えている。

また、大豆油や缶の原料となるスチール、段ボールなどの価格も上昇しており、コスト削減などの自助努力だけでは対応できず、一部メーカーでは値上げに踏みきらざるを得ない状況となっている。

流通面では、販売の中心が小売店からスーパーなどの量販店に移り、消費者の鮮度志向などを背景に多頻度小口納入が強まっている。また、調理のしやすさや、健康・安全・本物志向といった消費者ニーズの多様化も進んでいる。更に、リーマンショック以降、消費者の節約志向の高まりを受けた輸入品の増加等により厳しい状況となっている。

このため、業界では、生産拠点の海外移転や未利用資源の活用、仕入れルートの多角化・共同化による流通保管施設の整備を行っている。また、鮮度や安全性などに配慮した新製品の開発によって輸入品との差別化を図り、ペットボトル飲料やレトルト食品、調理済食品、ペットフードなどに幅を広げつつ、新しい分野に成長のチャンスを求めている。

### (3) 水産缶詰製造業の推移

#### ア 静岡県

(単位：百万円、%)

年別	事業所数	前年比	製造品 出荷額	前年比	全国シェア	備 考
S62	46	—	54,796	—	31.7	
H4	40	△ 2.4	73,443	6.4	37.9	出荷額最大
9	29	△ 3.3	58,466	1.9	34.8	
14	23	0.0	49,296	0.2	39.4	
17	24	9.1	45,299	△ 8.0	36.6	
18	20	△16.7	33,816	△25.3	30.6	
19	24	20.0	35,679	5.5	31.2	
20	24	0.0	37,434	4.9	32.4	
21	23	△ 4.2	37,441	0.0	33.2	
22	21	△ 8.7	37,687	0.7	33.3	

資料：静岡県「工業統計調査報告書」品目編 従業者4人以上の事業所

#### イ 全 国

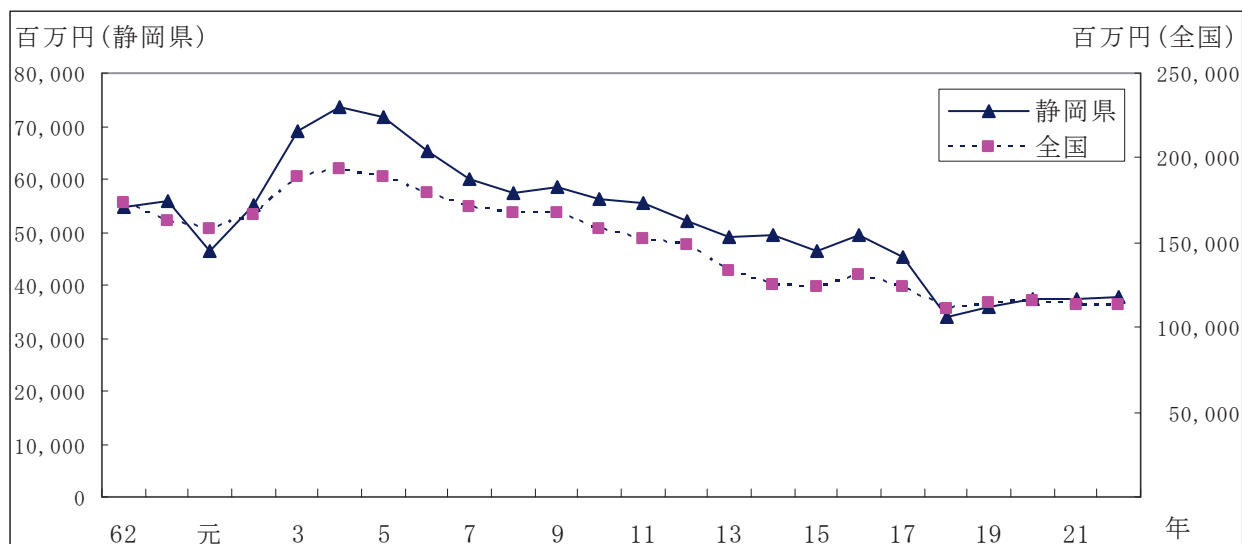
(単位：百万円、%)

年別	事業所数	前年比	製造品 出荷額	前年比	備 考
S62	325	—	172,978	—	
H4	291	△ 3.3	193,556	2.6	出荷額最大
9	264	△ 8.0	167,963	0.6	
14	243	△ 5.1	125,246	△ 5.9	
17	228	3.2	123,815	△ 5.2	
18	210	△ 7.9	110,405	△10.8	
19	218	3.8	114,204	3.4	
20	216	△ 0.9	115,364	1.0	
21	215	△ 0.5	112,767	△ 2.3	
22	209	△ 2.8	113,219	0.4	

資料：経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所



## ○ 水産缶詰製造品出荷額の推移



## ウ 全国シェア（製造品出荷額ベース）

年 別	1位		2位		3位		4位		5位	
	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%	県名	%
17	静岡	36.6	北海道	14.6	岩手	6.8	青森	6.8	兵庫	6.0
18	静岡	30.9	北海道	15.0	岩手	10.7	青森	8.1	千葉	4.9
19	静岡	31.2	北海道	14.7	岩手	10.5	青森	8.0	千葉	5.3
20	静岡	32.4	北海道	14.3	岩手	10.0	青森	9.0	宮城	5.6
21	静岡	33.2	北海道	12.6	岩手	10.6	青森	10.2	宮城	5.2
22	静岡	33.3	青森	13.8	北海道	11.8	岩手	11.6	宮城	4.9

(注) 経済産業省「工業統計表（品目編）」従業者4人以上の事業所の都道府県別出荷額をもとに算出



## 関 係 機 関 一 覧

関 係 機 関	住 所	電 話	F A X
経済産業省	〒100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3-1	(代表) 03-3501-1511	—
中小企業庁	〒100-8912 東京都千代田区霞が関1丁目3-1	(代表) 03-3501-1511	—
関東経済産業局	〒330-9715 さいたま市中央区新都心1-1 合同庁舎1号館	(代表) 048-600-0210	—
独立行政法人 中小企業基盤整備機構	〒105-8453 東京都港区虎ノ門3丁目5-1 虎ノ門37森ビル	(代表) 03-3433-8811	—
静岡県経済産業部 商工業局地域産業課	〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6	054-221-2522	054-221-5002
静岡県工業技術研究所	〒421-1298 静岡市葵区牧ヶ谷2078	054-278-3023	054-278-3066
静岡県工業技術研究所 沼津工業技術支援センター	〒410-0022 沼津市大岡3981-1	055-925-1100	055-925-1108
静岡県工業技術研究所 富士工業技術支援センター	〒417-8550 富士市大淵2590-1	0545-35-5190	0545-35-5195
静岡県工業技術研究所 浜松工業技術支援センター	〒431-2103 浜松市北区新都田1丁目3-3	053-428-4151	053-428-4160
(一社)静岡県商工会議所連合会	〒420-0851 静岡市葵区黒金町20-8 静岡商工会議所会館1F	054-252-8161	054-252-6610
静岡県商工会連合会	〒420-0853 静岡市葵区追手町44-1 静岡県産業経済会館6F	054-255-8080	054-255-6060
静岡県中小企業団体中央会	〒420-0853 静岡市葵区追手町44-1 静岡県産業経済会館5F	054-254-1511	054-255-0673
(公財)静岡県産業振興財団	〒420-0853 静岡市葵区追手町44-1 静岡県産業経済会館4F	054-273-4434	054-251-3024

## 各 業 種 団 体 一 覧

業 種	団 体 名	住 所	電 話	F A X
製 紙	(一社)静岡県紙業協会	〒417-0801 富士市大淵 2590-1	0545-35-5061	0545-35-5063
製 紙	(一社)静岡県紙パルプ技術協会	〒417-0801 富士市大淵 2590-1	0545-35-5025	0545-35-5027
印 刷	静岡県印刷工業組合	〒422-8076 静岡市駿河区八幡5丁目2-33	054-286-5171	054-286-5172
家 具	静岡県家具工業組合	〒420-0042 静岡市葵区駒形通6丁目8-21	054-254-7201	054-254-7204
建 具	静岡県建具工業組合	〒422-8066 静岡市駿河区泉町 8-15	054-281-9466	054-281-9470
仏 壇	静岡仏壇卸商工業協同組合	〒420-0042 静岡市葵区駒形通5丁目2-7	054-255-9126	054-251-4725
サンダル	静岡サンダル工業協同組合	〒422-8006 静岡市駿河区曲金3丁目1-10 静岡特産工業協会内	054-281-2999	054-284-1070
木工機械	静岡木工・産業機械協同組合	〒422-8006 静岡市駿河区曲金3丁目1-10 静岡特産工業協会内	054-281-3005	054-281-3005
木製雑貨	静岡県輸出雑貨協同組合	〒422-8006 静岡市駿河区曲金3丁目1-10 静岡特産工業協会内	054-281-2999	054-284-1070
プラモデル	静岡模型教材協同組合	〒422-8610 静岡市駿河区恩田原 3-7 (株)タミヤ内	054-286-5105	054-287-5930
雛具・雛人形	静岡雛具人形協同組合	〒422-8034 静岡市駿河区高松 2-5-20 (株)三和内	054-237-2115	054-237-2115
伝統工芸	静岡県郷土工芸品振興会	〒420-0853 静岡市葵区追手町 44-1 静岡県中小企業団体中央会内	054-254-1511	054-255-0673
織 維	(社)静岡県織維協会	〒432-8036 浜松市中区東伊場 2 丁目 7-1	053-456-7222	053-456-7228

業 種	団 体 名	住 所	電 話	F A X
織 維	遠州織物工業協同組合	〒430-0941 浜松市中区山下町 1-2	053-478-0121	053-478-0123
織 維	静岡県織物染色協同組合	〒432-8036 浜松市中区東伊場 2 丁目 7-1	053-453-3134	053-453-3135
織 維	天龍社織物工業協同組合	〒437-1204 磐田市福田中島 226-4	0538-55-2121	0538-55-2132
織 維	浜松織物協同組合	〒432-8036 浜松市中区東伊場 2 丁目 7-1	053-457-5027	053-457-5028
織 維	浜松織物染色加工協同組合	〒430-0913 浜松市中区船越町 14-13	053-461-7050	053-461-7059
楽 器	静岡県楽器製造協会	〒430-0904 浜松市中区中沢町 13-3	053-412-4570	053-471-5191
機械金属	静岡県機械金属工業協同組合 連合会	〒420-0853 静岡市葵区追手町 44-1 静岡県中小企業団体中央会内	054-254-1511	054-255-0673
機械金属	静岡県銑鉄鋳物工業組合	〒420-0031 静岡市葵区呉服町 2 丁目 7-10	054-252-0279	054-252-0295
水産缶詰	(一社)静岡罐詰協会	〒424-0806 静岡市清水区辻 1 丁目 1-1 号	054-368-7191	054-368-7194
そ の 他	静岡特産工業協会	〒422-8006 静岡市駿河区曲金 3 丁目 1-10	054-281-2999	054-284-1070

## データでみる静岡県の地場産業

(統計資料等)

平成24年12月発行

静岡県経済産業部商工業局地域産業課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6

TEL 054-221-2522

FAX 054-221-5002

○地域産業課ホームページアドレス

[http://www.pref.shizuoka.jp/  
sangyou/sa-560/chiikisangyo.html](http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-560/chiikisangyo.html)

○県産品紹介ホームページアドレス

<http://www.chabashira.co.jp/aisui/>

